NUEVA

ヌエバでチャンピオンを目指せ!!



国際ハンドボール連盟公認球

日本リーグ唯一の公式試合球

全日本大学選手権（インカレ）
唯一の公式試合球



日本ハンドボール協会検定球



本大会試合球

国際ハンドボール連盟公認球
日本ハンドボール協会検定球

32H300WRB　ヌエバ

●手縫い●天然皮革●3号球●32枚パネル●白×赤×青×黒

国際ハンドボール連盟公認球
日本ハンドボール協会検定球

32H200WRB　ヌエバ

●手縫い●天然皮革●2号球●32枚パネル●白×赤×青×黒

巻頭言



将来に、限りない夢を託して

（財）日本ハンドボール協会専務理事　市原　則之

全国各地のハンドボール関係者並びに愛好者の、絶大な支援と期待を一身に受け、シドニーオリンピック予選に挑んだ男女ナショナルチームは、残念ながらまたしても悲願を達成することが出来ませんでした。

野田強化委員長を中心とする強化スタッフは、１９９７年の熊本世界選手権の強化を皮切りに、現在の日本ハンドボール協会で出来得る限りの強化策を推進させてきましたが、未だハンドボール界全体のパワー不足にて、オリンピックの夢は４年後のアテネへと持ち越すことになりました。

ここに、日本協会運営責任者として謙虚に反省し、心からお詫び申し上げる次第であります。

さて、“世界各国の競技水準が著しく向上する中、日本のハンドボールは年々低下の一途を辿っている”と先輩諸氏よりよくお叱りを受けます。

しかし、私は日本の競技力は、決して下降しておらず、各階層指導者の努力で年々確実に上昇していると思います。ただ、世界の強国に比べて強化環境の整備に遅れをとり、それが成績に反映されていないのが原因だと判断致しております。

一般的に事業達成には、ソフトウエア（体制・システム）、ハードウエア（施設・設備）、ヒューマンウエア（人材）の３部門の充実が不可欠であるといわれておりますが、まさに強化事業も、この３要素が備わっていなければ優秀な成績を残すことが困難な時代にきています。

スポーツ先進国と言われている、アメリカ、フランス、ドイツなどでは、これら総ての面が整備されており、近年オリンピックなどの国際舞台での活躍が著しい、隣の中国・韓国においても、国家的支援によって、この３部門の充実が図られ、その効果がメダル獲得数として、顕著に表れていることは周知の通りであります。

最早日本は、アジアのスポーツ先進国ではないことを素直に認めなくてはなりません。

そこで、本年度を任期終了とする日本協会執行部は、“ハンドボール界１００年の計”の礎となるべく下記２つの基本方針を掲げ、将来に夢を託すよう施策致しましたので、関係各位のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

記

1. ナショナルトレーニングシステム（NTS）の構築

将来、恒常的にオリンピック出場を果たすため、普及と強化を一体とする「見つけ」「育て」「活かす」の一貫指導基盤を整備した、「勝利の方程式」を確立させる。

2. 頑張れ１０万人会の推進と定着

普及から強化までの事業規模拡大の財源を補う、強固な財政基盤を確立するため、全国的にサポート会員を勧誘し登録会員を増加させ、ハンドボール界のパワーアップを図る。

特集

第24回日本リーグ総決算

第24回日本リーグを終えて

日本ハンドボールリーグ機構・委員長　山下　泉

第24回日本ハンドボールリーグプレーオフ「ANA CUP」は3月19、20日駒沢体育館で行われた。多くのハンドボールファンの悲願であったシドニーへの出場権を残念ながら獲得できず、その傷が癒される間もない状況下で開催された為、不安もあったが沢山の観客の前で連日熱戦を展開することができました。メインスポンサーの全日本空輸をはじめご協賛をいただいた企業各社に深謝申し上げるとともに、リーグ戦の開催に尽力していただいた各地域の関係者のご支援に対し厚くお礼申し上げます。

第24回リーグ優勝は男子が本田技研の2年連続4回目、女子はイズミが2年連続3回目の栄冠を手中にしました。心からお喜びを申し上げます。各チームともレベルアップをしている中での優勝は日頃の厳しい練習に耐えた選手、監督や役員の方々の熱意と指導力に対し敬意を表します。

本大会は全ての面で大変厳しいシーズンとなりました。まず日程面でシドニー予選、女子世界選手権の出場、その為の強化合宿、海外遠征などで長期間の中断を余儀なくされ、平日や一日一試合の開催が多くなったこと、次に企業のリストラは全てのチームに波及し、リーグ期間中に3チームが脱退を発表するなど選手、ファンに大きな動揺を与える結果となり、必然的に観客動員も減少し、苦戦を強いられました。

第25回大会は10月24日～3月25日の開催で25周年の記念大会となります。チームは企業内だけでなく地域の市、県民や行政と三位一体となり、地域社会に根ざした活動に一層の努力をすることが観客増につながることになります。そしてリーグ戦で厳しい戦いをすることにより強化体制の確立を願っています。次世代を担う若手の選手が確実に育っており、魅力あるリーグの実現を目指しますので引き続き、ご支援をお願いいたします。

第24回日本リーグを振り返って

日本ハンドボールリーグ委員会・副委員長　川上憲太

（1）揺れ動いた第24回大会

第24回大会は当初からシドニー五輪予選兼アジア選手権大会と女子世界選手権大会の日程との調整のため、スケジュールが極めて変則的となり、途中で長期間の中断等によりファンやマスコミに対しても戸惑いや迷惑をかけたシーズンとなりました。しかしながら、各チームとも難しいスケジュール調整の中、よく戦力を整え、各試合とも熱戦につぐ熱戦で大いに盛り上がりました。

結果的には、本田技研（2年連続4回目）、イズミ（2年連続3回目）の優勝となりましたが、優勝を逸したチームとの差はまさに紙一重といった試合展開でした。優勝した両チームには心からお祝いを申し上げるとともに、ご関係者の日頃の努力の賜物と心より敬意を表する次第であります。

一方、日本経済の低迷から企業のリストラの影響は各チームにも厳しくのしかかり、シーズン途中で3チームがリ

ーグ撤退を余儀なくさせられました。永年にわたり共に歩んできた仲間として残念でなりません。

また、リーグ途中でシドニー予選敗退という苦しい結果を現実のものとしなければなりませんでした。

この様に、まさに揺れ動いた第24回大会でしたが、予選敗退のうっぷんを吹き払うような盛り上がりを見せたプレーオフ大会で有終の美を飾ることができました。ここに全日空様をはじめとするスポンサー各位をはじめ、各地域での開催にご尽力を頂いた関係者のご支援ご協力に改めて感謝と御礼を申し上げます。

（2）まさに日本のトップゲームの連続

今シーズンはシドニー予選のシーズンということで非常に充実した各チームの全日本選手と、本田技研のストックラン、ヴォル選手を筆頭に大同特殊鋼には新たに韓国ナショナルプレーヤー白選手も加わり、男女共に国際レベルの激しい試合が展開され、まさに日本のトップゲームが各地でくり広げられました。

この様に内容・陣容の充実した試合が続けば、少しかげりを見せた観客動員、メディアの注目度にも好影響があるわけで、選手をはじめとして関係者はさらなる努力を続けねばなりません。

（3）最高の盛り上がりを見せたプレーオフ

「今年も延長戦になるぞ」とのファン・関係者のささやきこそ現実にならなかったものの、ここ数年繰り広げられる激戦の予感はまさに的中。

男子の本田技研対大同特殊鋼の決勝はまさに死闘。一瞬の動き・判断が勝敗を分けてしまうという日本のトップチームによる素晴らしいハンドボールゲームを目の前にして、改めてハンドボールの魅力を再認識させられました。

また、悲願の初優勝を目前にして無念の涙をのんだ北國銀行もまさに紙一重、来シーズンの再挑戦を期待したいと思います。

（4）プレーオフ決勝は男・女共テレビ完全生中継

今回準決勝・決勝は今年も8試合を中継して下さいました神奈川テレビで放映されました。決勝は3月20日㈷の午後1時～5時まで男・女共完全生中継で放映されました。

途中「がんばれ10万人会」の説明、男子決勝を吹いた外国人レフェリーの紹介等をはさんで、解説者には男子ナショナル監督田口氏、女子ナショナル監督伊藤氏にお願いをし、若さあふれる解説でタップリとハンドボールの魅力が伝わったのではないかと思います。なお、この試合は後日、パーフェクＴＶでも放映されました。

（5）節目の第25回大会に向けて

いよいよ来シーズンは節目の第25回大会が始まります。そしてアフター・シドニー・フォー・アテネオリンピックのスケジュールとなります。

残念ながらシドニーへの出場は出来ませんでしたが、次のアテネに向けての第一歩を踏み出すシーズンとなります。

日本リーグが持っている使命として、一つは国際的トップレベルのゲームをファンに提供し、日本のトップゲームを維持・発展させ、国際的に通用する選手を強化育成し、ナショナル選手をたくさん輩出し、オリンピック出場をはたすというものです。もう一つは、山下委員長がいつも言っているチームとしての地域への普及・貢献です。常にチームは企業内だけでなく、チームの存在する地域へ、地域の住民、サポーターと一緒になり、行政に働きかけ、また他のスポーツ団体とも協力し、地域へのスポーツ文化定着、普及、スポーツ人口の拡大に貢献しハンドボールの発展に寄与しなければなりません。

この2つの大きな使命を持って課題とされているたくさんの問題に全員一丸となって挑戦していかなければなりません。来シーズンも皆様の温かいご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

初の2連覇を達成して

本田技研ハンドボール部監督　山村敏之

第24回日本ハンドボールリーグの全日程を無事終了することが出来、また、本田技研ハンドボール部として初の連覇による4回目のリーグ優勝を果たすことが出来ましたことについて、リーグ関係者並びに応援して頂いた皆様方に感謝致します。一年間本当にありがとうございました。

今シーズンを振り返ると、4月の全日本実業団選手権大会で大同特殊鋼チームに準決勝戦で完敗するという形でのスタートとなり、続く熊本国体“決勝”、全日本総合選手権“決勝”と3連敗！　「大同特殊鋼チームに勝つ為に何をしなければならないか」ということが常に頭から離れない一年間でした。

日本リーグレギュラーシーズンでは大同特殊鋼チームに1勝1敗（14戦12勝1敗1分）ということで、2位でプレーオフ出場となりましたが、過去の敗戦から選手1人1人が真剣に自分とチームの「心」「技」「体」について見つめ直し、何が良くて何が悪かったのか？そしてプレーオフでは、どの様に戦わなければいけないか？ということを考え整理した結果、“チームとしての約束事”“個人の役割”が再徹底され、迷いのない最高のチーム状態でプレーオフに向かうことが出来た様に思います。

そしてプレーオフでは、選手1人1人が自分の役割に対し堂々と果敢に、しかも冷静にチャレンジしてくれたことが逆転優勝につながったのだと確信しております。私自身すばらしい選手に囲まれた幸せな一年間でした。

来シーズンも本田技研チームは「世界に通用するハンドボールチーム」という大目標に向かいさらに努力と研究を続け、日本のハンドボール界の発展につながる様に頑張りたいと思いますので、今後も引き続き皆様の応援、ご指導よろしくお願い致します。

最高殊勲選手賞を受賞して

本田技研ハンドボール部　**フレデリック・ヴォル**

第24回日本リーグプレーオフ大会において本田技研チームが連覇による４回目の優勝を果たすことが出来、また、私自身、最高殊勲選手賞というすばらしい賞をいただき、応援してくれたサポーターの皆様に感謝しています。“アリガトウゴザイマシタ”

プレーオフでの最高殊勲選手賞は今回たまたま本田チームの私がいただくことになりましたが、チームメイト全員の勲章であり、そしてまたプレーオフ大会で共に戦った湧永チーム、大同チームの選手、スタッフの皆様にも感謝します。

本田技研チームとして、これからも常に世界を視野に入れた強化活動を続けることが日本のハンドボール界の発展につながることを信じ、全力で頑張りたい。そしていつの日か全日本チームが世界の常連国、常勝国となり、フランスチームと世界チャンピオンを争える日が来ることを望んでいます。その為には、日本リーグの発展が不可欠であり、来シーズンもハンドボール界全体で大会を盛り上げ、すばらしい一年にしましょう。

私自身、来シーズンも日本でプレー出来ることを喜びと感じ、また新しい気持ちで第25回大会を迎えたい。

応援よろしくお願いします。

歓喜の逆転優勝

イズミハンドボール部監督　**林　五卿**

初めに日本リーグの企画、運営面にご尽力を賜った、関係各位に心より感謝を申し上げたいと思います。

私たちのイズミハンドボール部は創部６年目の第24回日本ハンドボールリーグの開幕に当たり、昨年以上の成績を目標とし、焦ることなく、韓国遠征で力を入れコンビネーションや若い選手たちの自信をつけさせることを目的としてスタートしました。お陰様で選手たちは大した怪我もなく、レギュラーシーズンを10勝１敗で１位通過をしました。１敗の大崎戦がイズミにとって良い薬になり、プレーオフまで集中力が高まるようになりました。

プレーオフに対しましては、５分間のハーフ無しゲーム、さらに勝ち負けの重要性や団結力の養成に４対４の攻撃練習を中心に行ってまいりましたが、思うようりうまくいきませんでした。

「今回は３冠が目標ですね」といわれ選手たちは幾分責任を感じてか、堅くなって決勝戦に臨んだと思います。立ち上がりから20分過ぎまでに７点差をつけられる等、レギュラーシーズンでは見られなかった確率の低いプレーが再三にわたって見られましたが、精神面の立ち直りが個々のプレーにも随所で発揮してくれ前半を11対11の同点に追いつくことが出来、後半に望みを託したのです。

まさに一進一退のゲームが最後のタイムアップまで続き勝敗の厳しさを十分に味わう素晴らしいゲーム展開であったと思います。最後まであきらめることなく、相手より勝ちたい気持ちが強かった結果が優勝につながったと思います。私はこの機会に選手たちに対して感謝の言葉を述べたいと思います。これで終わることなく、日本ハンドボール界のために頑張りますし、イズミチームのレベルアップに精進して参りたいと念じています。今後も引き続き皆様方の応援をよろしくお願います。

最高殊勲選手賞を受賞して

イズミハンドボール部　**橋詰とね**

今回のプレーオフ決勝は、とても苦しい試合でした。勝つためには何をするべきか考えているうちに60分間が終わったような気がします。優勝した瞬間、自分がどんなプレーを決勝という舞台でやってきたのか思い出せない程頭の中が真っ白だったので、最高殊勲選手に私の名前が呼ばれた時は本当に驚きました。しかし、その時わかったことが１つありました。それは「努力すればおつり付きで何かが返ってくる」ということです。

イズミに入部してすぐ実業団のレベルと韓国式プレーという壁にあたり、林監督に引っ張られながら努力と忍耐の毎日を過ごしました。そして昨年のプレーオフ、私はその努力の結果を出すことができなかったのです。努力を信じて頑張ってきただけに、努力するということ、そして自分自身も信じることができなくなりました。そんな気持ちのまま新しいシーズンを迎えたのですが、私以上に私の力を信じて指導される林監督の心に目が覚めた私は、また努力し続けることを心に誓いました。そして１年間頑張りました。

最高殊勲選手賞を受賞した今、努力を信じて良かったと本当に思っています。厳しいながらも愛情をもって指導して下さった監督、コーチ。落ち込んだ時、私を支えてくれたり、小さなチャンスでもパスを私に入れてくれたチームメイト。イズミのチーム全員がいなければこのような賞をいただくことはできなかったと思います。１人１人に本当に感謝しています。

これが終わりではなく、スタートとして考えているので、これからも努力してこの賞を受賞できたことを大きなステップとして向上していきます。本当にありがとうございました。

第24回日本リーグシーズンの総括

日本ハンドボールリーグ委員会・総務・規律部長 山上雅弘

1）概要

第24回日本ハンドボールリーグは、昨年6月25日に広島、山形、沖縄の3会場に全チームが集結するフェスティバル開催で熱戦をスタートしました。今大会は特にシドニー五輪予選（熊本）というビッグイベントを含め、国体（熊本）、世界選手権（女子）、全日本総合（愛知・横浜）等をはさみながら3月19、20日のプレーオフまで約9ケ月間の大変長い開催期間となりました。

プレーオフは、男子が本田技研、女子がイズミの優勝で幕を閉じ、両チーム共2連覇となりました。プレーオフ決勝戦は男女共に最後の最後まで緊迫した試合となりリーグの締めくくりに相応しい大会となりました。以下に今シーズンの総括をしました。

2）参加チーム数

第24回日本リーグは企業スポーツにとって大変厳しい経済環境の中での開催となり参加チームも23回大会に比べ5チーム減の合計25チームとなりました。出場チームの構成は、1部男子は8チーム、1部女子は12チーム、2部男子は5チームでした。

男子は1部の日新製鋼、中村荷役、2部の三景、日鉄建材、ケー・エフ・シーが23回大会を最後にリーグを撤退したため、2部リーグ1、2位のデンソーと本田技研熊本が1部に自動昇格しました。

女子は各チームの活性化や観客動員増を目標とし2部の4チームを1部に昇格させた12チームとしました。

3）試合方式

12チームとなった女子1部は、2年間でホーム&アウェイの22試合を完結する変則的なホーム&アウェイ方式を採用しました。従って、24回大会の各チームの試合数は前年に比べ3試合減の11試合となりました。この方式の採用は、今大会期間が女子の場合約3ケ月半と非常にタイトなスケジュールの中での開催となること、また厳しい経済環境の中で各企業の経費負担軽減等を考慮したためですが、試合数が減ることがナショナル選手の強化の場でもある日本リーグのレベルアップに繋がるかどうかという点で賛否両論あり、今後の課題となりました。

4）チーム事情（加盟・撤退）

女子1部のＯＳＡＫＩ　ＯＳＯＬ、大和銀行、ジャスコの3チームが24回大会を最後に撤退することになり、女子1部は25回大会から9チームでの開催となります。

男子は25回大会から新たに2部に豊田合成が加盟する事になり、企業スポーツにとって大変厳しい環境の中で唯一明るい話題となりました。

5）レギュラーシーズンの観客数

1試合当たりの観客数は男子1部が約460人、女子1部が約370人と目標の500人を達成することができませんでした。今期の観客数は男女共に過去4年間で最低の状況でした。観客動員が例年に比べ低調な理由として、①6月からの開幕が学校行事などと重なり学生の動員ができなかったこと②企業チームからの応援が不況の煽りを受け減少した。③平日開催や女子1試合の単独開催での動員が難しい。④話題性に乏しくスーパースターの育成が遅れている。⑤リーグ日程変更が多くマスコミとの信頼関係を失いつつある。が上げられ、第25回大会以降の課題として十分な検討が必要と考えています。

6）レギュラーシーズンの総括（表1）

女子1部はイズミと北国銀行が安定した試合運びで第6週以降他を寄せ付けず上位をしっかりキープし、第9週にプレーオフ出場を決めました。

プレーオフ出場の残り1枚の切符は、今大会

表1　男女1部レギュラーシーズンの順位の推移

女子1部

	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第6週	第7週	第8週	第9週	第10週	第11週
イズミ	3	3	3	3	3	2	2	1	1	1	1
北国銀行	1	1	2	2	1	1	1	2	2	2	2
OSAKI OSOL	8	8	8	7	5	4	4	3	3	3	3
立山アルミ	7	7	6	8	6	7	7	4	4	4	4
大和銀行	4	4	4	6	8	5	5	9	7	7	5
オムロン	2	2	1	1	2	3	3	5	5	5	6
ブラザー工業	6	6	5	4	4	6	6	6	6	6	7
日立栃木	5	5	7	5	7	8	8	8	9	9	8
シャトレーゼ	9	9	10	11	9	9	9	7	8	8	9
ジャスコ	10	10	11	9	10	10	10	10	10	10	10
ソニー国分	11	11	9	10	11	11	11	11	11	11	11
ムネカタ	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12

男子1部

	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第6週	第7週	第8週	第9週	第10週	第11週	第12週	第13週	第14週	第15週
大同特殊鋼	1	1	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1
本田技研	3	3	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2
湧永製薬	2	2	3	3	3	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3
三陽商会	5	5	5	5	5	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4
トヨタ車体	8	8	8	8	8	6	6	5	5	5	6	7	5	6	5
本田技研熊本	4	4	4	4	4	5	5	6	6	6	7	5	6	7	6
OSAKI OSOL	7	7	7	7	7	8	8	8	7	7	5	6	7	5	7
デンソー	6	6	6	6	6	7	7	7	8	8	8	8	8	8	8

を最後にリーグ撤退が決まっているＯＳＡＫＩ　ＯＳＯＬが意地を見せました。第３週まで８位（１勝２敗１分）と出遅れましたが、第４週の対イズミ戦で接戦を１点差で競り勝ってから波に乗り、第５週以降の日立栃木、北国銀行、オムロン、ソニー国分、ジャスコ、ブラザー工業を次々に下し破竹の８連勝、堂々の３位となりプレーオフ出場を決めました。立山アルミは緒戦の大和銀行戦を落としたのが最後まで響き、後半追い上げたものの勝点１点及ばす昨年に続き４位となりました。

男子１部は大同特殊鋼と前年の覇者本田技研が順当にプレーオフ出場を決めました。３位は湧永製薬と三陽商会との間で争われましたが、車体戦を落とした三陽商会に対して、下位チームとの試合を確実にものにした湧永製薬が９勝５敗、勝点18と三陽商会に３点差をつけ最後まで粘り振り切りました。今大会も男子は３月11日（土）にレギュラーシーズン終了してから３月19日のプレーオフ開幕までのインターバルは約１週間しかなくレギュラーシーズンの延長での戦いとなりました。これに対して女子は昨年10月以降約５ケ月と十分すぎる位の建て直しの期間がありましたが、チームにとってもファンにとっても逆に間が空きすぎた感があり、４年後のオリンピックイヤーのスケジュールの決め方に課題が残りました。

7）プレーオフの総括

今大会は参加チームの実力が接近しており準決勝、決勝共に最後まで緊迫した試合でした。女子準決勝に出場したＯＳＡＫＩ　ＯＳＯＬは、レギュラーシーズンに唯一イズミと北国銀行に勝ったチームでしたが、シーズン中活躍した外国人選手不在の為思うように得点できず一方的な試合となりました。残り３試合は何れも１点を争うシーソーゲームとなり最後まで目の離せない展開となりました。男子は準決勝の接戦を湧永製薬に競り勝ったシーズン２位の本田技研が決勝でも大同特殊鋼との接戦を粘り強く制し２年連続の栄冠を摑みました。女子も同様にイズミが接戦を制し２年連続の栄冠を摑みました。

全般的にはプレーオフ自体は試合内容も充実し、面白くなって来ていますが、ファン拡大を目指した観客へのサービスという点で何をすべきかが今後の課題と考えます。

8）25回大会に向けて

2000年度の第25回日本リーグは、富山国体終了後の10月24日に開幕し、１月の世界選手権（男子）を挟んで３月10日にレギュラーシーズンを終了、プレーオフは２週間後の３月24、25日に東京・駒沢の開催となっています。また、25回という区切りの年ですのでチーム・個人記録の整備を始め、６月にはオールスター戦等のイベントも企画しています。

また試合方式では、ホーム＆アウェイのあり方についても再考し例えば集中開催を増やすなどして、会場に来られたハンドボールファンに少しでも多くの試合を観戦してもらえるよう配慮しました。

第25回大会の参加チームは下記の23チームです。24回大会に引き続きご声援宜しくお願いします。

【男子】

(男子１部)本田技研・大同特殊鋼・湧永製薬・三陽商会・トヨタ車体・本田技研熊本・ＯＳＡＫＩ　ＯＳＯＬ・デンソー

(男子２部)アラコ九州・北陸電力・トクヤマ・トヨタ自動車・大阪ガス・豊田合成

【女子】

(女子１部)イズミ・北国銀行・立山アルミ・オムロン・ブラザー工業・日立栃木・シャトレーゼ・ソニー国分・ムネカタ

個人表彰

【１部】

《男子》

〈最優秀監督賞〉山村　敏之(本田技研・初)
〈最高殊勲選手賞〉フレデリック・ヴォル(本田技研・初)
〈得点王〉ステファン・ストックラン(本田技研・初)　102点
〈フィールド得点賞〉ステファン・ストックラン(本田技研・初)　92点
〈シュート率賞〉飯山　秀俊(デンソー・初)　0.659
〈７ｍスロー得点賞〉荒尾　祐治(OSAKI OSOL・初)　38点
〈７ｍスロー阻止賞〉四方　篤(本田技研・初)　10本
〈最優秀選手賞〉ステファン・ストックラン(本田技研・②)
〈最優秀新人賞〉下川　真良(湧永製薬)
〈ベストセブン賞〉
　ＧＫ・日原　一幸(大同特殊鋼・初)
　ＣＰ・冨本　栄次(大同特殊鋼・②)
　藤井　孝志(大同特殊鋼・③)
　辻　昇一(OSAKI OSOL・初)
　田中　将(三陽商会・初)
　朴　性立(大同特殊鋼・②)
　ステファン・ストックラン(本田技研・②)
〈ベストディフェンダー賞〉フレデリック・ヴォル(本田技研・②)
〈フェアプレー賞〉湧永製薬、本田技研熊本　(95点/14試合)

《女子》

〈最優秀監督賞〉林　五卿(イズミ・③)
〈最高殊勲選手賞〉橋詰　とね(イズミ・初)
〈得点王〉田中　美音子(大和銀行・③)　125点
〈フィールド得点賞〉田中　美音子(大和銀行・②)　94点
〈シュート率賞〉橋詰　とね(イズミ・初)　0.829
〈７ｍスロー得点賞〉田中　美音子(大和銀行・③)　31点
〈７ｍスロー阻止賞〉山口　文子(オムロン・③)　20本
〈最優秀選手賞〉田中　美音子(大和銀行・初)
〈最優秀新人賞〉鵜野　亜矢子(日立栃木)
〈ベストセブン賞〉
　ＧＫ・山口　文子(オムロン・③)
　ＣＰ・小松　真理子(北国銀行・③)
　山崎　理恵(立山アルミ・②)
　橋詰　とね(イズミ・初)
　田中　美音子(大和銀行・⑤)
　呉　成玉(イズミ・②)
　田中　美代子(北国銀行・②)
〈ベストディフェンダー賞〉上出　恵美子(北国銀行・初)
〈フェアプレー賞〉イズミ　(37点/11試合)

【２部】《男子》

〈最多得点賞〉田中　慎一(アラコ九州・初)　59点
〈フィールド得点賞〉田中　慎一(アラコ九州・初)　57点
〈シュート率賞〉材木　圭二(アラコ九州・初)　0.788
〈７ｍスロー得点賞〉横越　久樹(北陸電力・初)　21点
〈７ｍスロー阻止賞〉山本　敏(トヨタ自動車・初)　７本
〈ベストディフェンダー賞〉保科　秀和(トクヤマ・初)
〈新人賞〉佐藤　優(トヨタ自動車)
〈フェアプレー賞〉北陸電力、大阪ガス　(48点/８試合)

【２部】《男子》

〈ベストセブン賞〉
　ＧＫ・谷川　一寿(アラコ九州・初)
　ＣＰ・北川　修(北陸電力・初)
　田中　慎一(アラコ九州・初)
　向井　秀樹(大阪ガス・初)
　光田　功次(トヨタ自動車・初)
　三上　洋範(トヨタ自動車・初)
　元島　邦彦(アラコ九州・④)

第24回日本ハンドボールリーグ成績表　レギュラーシーズン日程終了

順位	[1部男子]	大同	本田	湧永	三陽	車体	本熊	OSAKI	デンソー	試合数	勝数	引分数	敗数	勝点	総得点	総失点	差
1	大同特殊鋼		26○ 18●	22○ 31○	25○ 22○	25○ 27○	24○ 23○	29○ 28○	35○ 36○	14	13	0	1	26	371	257	114
2	本田技研	23● 20○		22○ 25○	30○ 22△	23○ 28○	34○ 30○	21○ 28○	36○ 39○	14	12	1	1	25	381	251	130
3	湧永製薬	19● 23●	20● 20●		14● 20○	26○ 22○	27○ 28○	21○ 28○	44○ 31○	14	9	0	5	18	343	261	82
4	三陽商会	19● 14●	16● 22△	17○ 13●		20△ 21●	22△ 26○	24○ 23○	27○ 28○	14	6	3	5	15	292	293	-1
5	トヨタ車体	15● 20●	16● 14●	13● 17●	20△ 22○		20● 22○	23● 22○	31○ 27○	14	5	1	8	11	282	328	-46
6	本田技研熊本	18● 17●	13● 19●	14● 18●	22△ 15●	25○ 16●		21○ 12●	26△ 23○	14	3	2	9	8	259	342	-83
7	OSAKI OSOL	14● 16●	12● 18●	14● 19●	19● 19●	24○ 21●	20● 18○		25△ 26○	14	3	1	10	7	265	322	-57
8	デンソー	21● 18●	21● 16●	22● 14●	25● 18●	26● 24●	26△ 22●	25△ 17●		14	0	2	12	2	295	434	-139

※上位3チームはプレーオフで順位を決定する。7，8位は入れ替え戦に出場する。

順位	[1部女子]	イズミ	北国	大崎	立山	大和	オムロン	プラザー	日立	シャトレ	ジャスコ	ソニー	ムネカタ	試合数	勝数	引分数	敗数	勝点	総得点	総失点	差
1	イズミ		34○	26●	33○	33○	31○	26○	34○	30○	28○	40○	43○	11	10	0	1	20	358	246	112
2	北国銀行	21●		18●	23○	27○	21○	29○	30○	29○	23○	34○	50○	11	9	0	2	18	305	203	102
3	OSAKI OSOL	27○	22○		28●	28●	20○	26○	40○	27△	27○	34○	32○	11	8	1	2	17	311	234	77
4	立山アルミ	29●	22●	29○		30●	28○	26○	31○	30○	29○	43○	44○	11	8	0	3	16	341	243	98
5	大和銀行	27●	25●	31○	33○		32○	19●	26●	25○	29○	31○	54○	11	7	0	4	14	332	261	71
6	オムロン	28●	17●	17●	18●	22●		17○	24○	27○	29○	36○	41○	11	6	0	5	12	276	205	71
7	プラザー工業	22●	13●	17●	17●	20○	11●		24○	18●	19○	18○	41○	11	5	0	6	10	220	230	-10
8	日立栃木	26●	16●	11●	24●	32○	21●	16●		30○	28○	27○	41○	11	5	0	6	10	272	273	-1
9	シャトレーゼ	23●	23●	27△	18●	22●	15●	22○	24●		26○	29○	36○	11	4	1	6	9	265	267	-2
10	ジャスコ	11●	13●	22●	20●	21●	10●	18●	14●	20●		22○	26○	11	2	0	9	4	197	262	-65
11	ソニー国分	20●	12●	23●	20●	15●	11●	15●	16●	20●	16●		38○	11	1	0	10	2	206	327	-121
12	ムネカタ	12●	6●	13●	9●	11●	5●	16●	10●	11●	8●	13●		11	0	0	11	0	114	446	-332

※上位3チームはプレーオフで順位を決定する。7－8位は対戦間勝点による。

順位	[2部男子]	アラコ九州	北陸電力	トクヤマ	トヨタ自動車	大阪ガス	試合数	勝数	引分数	敗数	勝点	総得点	総失点	差
1	アラコ九州		27○ 19△	26○ 29○	23○ 25○	26○ 25○	8	7	1	0	15	200	161	39
2	北陸電力	24● 19△		27○ 33○	23○ 26○	29○ 25○	8	6	1	1	13	206	164	42
3	トクヤマ	18● 17●	21● 19●		26○ 21○	23○ 19●	8	3	0	5	6	164	202	-38
4	トヨタ自動車	22● 24●	16● 19●	25● 20●		20○ 22○	8	2	0	6	4	168	174	-6
5	大阪ガス	21● 16●	23● 20●	17● 25○	16● 14●		8	1	0	7	2	152	189	-37

※上位2チームは1部との入れ替え戦に出場する。

第24回日本ハンドボールリーグ・プレーオフ

本田技研・イズミが連覇!!

第24回日本ハンドボールリーグのプレーオフ、ならびに男子１・２部の入替戦が３月18日(土)より20日(月)まで、東京都・駒沢体育館において行われた。男子は激戦の末、準決勝でリーグ３位の湧永製薬を下したリーグ２位本田技研が、粘るリーグ１位大同特殊鋼を２点差で振り切り優勝。女子はリーグ１位イズミが、今大会を最後に休部となるＯＳＡＫＩ　ＯＳＯＬを準決勝で下したリーグ２位北國銀行を１点差でしりぞけ、ともに２連覇を達成した。

本田技研はヴォルが、準決勝８得点、決勝では13得点をあげる大活躍。ストックランも２日間で11得点をあげ、四方・吉井の両ＧＫが苦しみながらもゴールを守り抜いた。イズミは林・呉の両韓国人選手が北國の密着マークに苦しみながらも全員でまんべんなく加点、北國上出の11得点をあげる活躍もあったが最後は１点差で逃げ切った。

プレーオフＭＶＰは、男子が２試合攻守にわたり大活躍を見せた本田技研のヴォルが、女子はイズミの橋詰とねが選ばれた。

なお、男子１・２部入替戦は、ＯＳＡＫＩ　ＯＳＯＬ・デンソーの両１部チームが貫禄を見せつけ、北陸電力・アラコ九州の両２部チームを下し、残留を決めた。

【男子】入替戦

・３月18日(土)

デンソー　32（15―14／17―13）27　アラコ九州

■全員得点のデンソーがまず１勝！

挑戦者であるアラコ九州ルーキー植木の先制ゴールで幕を開けた入替戦第１試合。両チームとも譲らず、退場者も１人づつ出す中、５得点の山内の頑張りもあり、デンソーの１点リードでハーフタイムをむかえた。

後半も一進一退でゲームは進むが、10分、デンソー飯山が今日２回目の退場の間に、アラコが１点リードする。しかしデンソーも総監督兼任の久本選手の速攻シュートなどで15分、22対20と２点差にする。ここでアラコはタイムアウトを要求。しかし流れは変わらず、デンソーが飯山・武田らの速攻で４連取。しかし、ここでデンソーの連続退場により、アラコのパワープレーの時間帯ができるも、デンソーにディフェンスで粘られ、逆に残り６分で６点差にされてしまう。田中、植木らで頑張るアラコだが、全員でコンスタントに得点を重ねたデンソーが、まず１戦目を制した。

OSAKI OSOL　29（13―８／16―７）15　北陸電力

■一部の意地を見せ、ＯＳＡＫＩ圧勝！

ＯＳＡＫＩ東のポストシュートで先制し、加藤のミドル、佐藤の速攻からのミドルで順調に得点を重ねる。一方、挑戦者の北陸は、神田の豪快なロングシュートで応戦するが、固いディフェンスのＯＳＡＫＩを攻めあぐむ。しかしＯＳＡＫＩにもシュートミスなどがあり、ロースコアで進むが、20分過ぎから両チーム共、攻撃のリズムが出始め、13対８とＯＳＡＫＩの５点リードでハーフタイムを迎えた。



ロングを放つストックラン選手

後半も、佐藤のサイド２連取、小林の速攻などで加点するＯＳＡＫＩに対し、なかなかＯＳＡＫＩの一線ディフェンスを突破できない北陸。ジリジリと点差が開き、残り10分で23対12と辻、秋山の速攻などで11点差まで広がった。北陸筆吉のポスト、カットインで反撃するも、固いディフェンスから北陸のパスミスなどをついての速攻などで、29対15とディフェンスの強さを見せつけた形で１試合目は終了した。

・３月19日(日)

デンソー　31（16―６／15―10）16　アラコ九州

■アラコ、ミスで自滅！　デンソーの１部残留が決定

前日の乱打戦から一夜明け、両チームの調子いかんでは、勝敗はもつれそうな２戦目であったが、前半始まってみると、アラコの攻撃でのミスを上手くついて武田・飯山・梅井の速攻につなげ、遅攻では、長崎のロングが決まり、前日とはうってかわった一方的な試合展開になった。前半は16対６とデンソーの10点リードで終えた。

後半も試合のペースは変わらず、アラコのミスを拾っての速攻で着々と得点を重ね、ロング・ミドルで応戦するアラコの田中だが、一度も追いつくことなく、タイムアップを迎えた。ミスに対しての対応の差が出た形でデンソーの１部残留が決まった。

OSAKI OSOL　24（14―9 / 10―11）20　北陸電力

■粘る北陸電力を一蹴、ＯＳＡＫＩ　ＯＳＯＬの１部残留が決定

両ＧＫの好守を皮切りに始まった入替戦２戦目。前日力負けの感が残る北陸。この日の挑戦ぶりが見物であったが、前日同様、ＯＳＡＫＩの一線ディフェンスを攻めあぐみ、14対９とＯＳＡＫＩリードで前半を終えた。

後半は、北陸の攻撃、守り共にリズムが出、横越のペナルティー、北川の速攻で、15分に３点差まで詰め寄った。ＯＳＡＫＩはタイムアウトで流れを変えたかったが、攻撃のミスからの逆速攻で同点に追いつかれる。しかし、ＯＳＡＫＩはあわてず、東のポスト、荒尾のペナルティー、近藤のサイドシュートなどで踏みとどまり、筆吉のフェイントプレーで反撃する北陸に決定打を打たせず、タイムアップを迎えた。２戦共、ディフェンス力に差のあるゲームであり、そのディフェンス力の上であったＯＳＡＫＩの１部残留が決定した。

【女子】プレーオフ準決勝

・３月19日(日)

北國銀行　22（11―4 / 11―8）12　OSAKI OSOL

【北國銀行】得点	氏名	番号	【OSAKI】番号	氏名	得点
0	沖園	1	2	川村	0
7	上出	2	5	佐々木	0
1	田中	3	6	江連	0
0	斉藤	4	7	鵜狩	2
1	小松	5	8	佐久川	4
0	桶	6	9	穂積	4
7	浜田	7	11	酒井	2
3	中村	8	12	後藤	0
2	北川	10	14	高橋	0
0	田中	11	16	金丸	0
1	近藤	13	17	佐藤	0
0	宮西	16	18	高屋	0
22	計		(仲田・植村)	計	12

■北國がＯＳＡＫＩを一蹴／　ＯＳＡＫＩは有終を飾れず／

レギュラーシーズン２位で、上出・田中由・小松ら全日本メンバーをそろえる北國と、今年で休部が決まり、有終の美を飾りたいＯＳＡＫＩ　ＯＳＯＬ。優勝決定戦出場の挑戦権をかけての戦いが行われた。20分までは、両チームとも決定打がなく、６対３とロースコアで試合が進む。20分過ぎに浜田のサイド、上出のミドルと速攻で４連取した北國が優位に進め、ＯＳＡＫＩは強い北國ディフェンスを攻めあぐみ11対４と７点差でハーフタイムを迎えた。

やはりレギュラーシーズン終了後、帰国した金と宋の穴は大きいのか、後半出だしからも田中由・小松の速攻で連取した北國が主導権を握り、上出のスタンディング、中村のカットインで順調に得点を重ねる。北國は途中で若いメンバーを使う余裕も見せるが、前半と同様、ＯＳＡＫＩの決定打がないまま、15分、18対６と点差が広がった。途中北國のコートプレーヤーが退場で４人になる場面もあったが、大勢に影響なく、上出ら主力を休ませながらも、22対12と10点差で翌日への出場権を得た。ＯＳＡＫＩ　ＯＳＯＬは３位ということで、今シーズンは終了した。



ＭＶＰに輝いた、橋詰選手のシュート

プレーオフ決勝

・３月20日(月)

イズミ　26（11―11 / 15―14）25　北國銀行

【イズミ】得点	氏名	番号	【北國銀行】番号	氏名	得点
0	高森	1	1	沖園	0
0	広瀬	2	2	上出	11
2	藤澤	3	3	田中	2
4	青戸	4	4	斉藤	0
4	橋詰	5	5	小松	2
5	河本	6	6	桶	1
7	林	7	7	浜田	1
0	岩本	8	8	中村	6
0	長木	9	10	北川	0
4	呉	10	11	田中	2
0	村上	12	13	近藤	0
0	小島	14	16	宮西	0
26	計		(浜田、小笠原)	計	25

■大激戦を制し、イズミの２年連続３度目の優勝／

挑戦者である北國のスローオフで試合が始まった。北國はスタート時から、林・呉の韓国コンビにマンツーマンをつけ、イズミの攻撃リズムを崩しにかかる。しかし他の４人が広いＤＦを利用して７ｍスローへ持ち込むが、北國のＧＫ沖園が連続してファインプレー、上出の３連取もあり、14分に５点差となり、たまらずイズミがタイムアウトを要求。その後、20分過ぎから橋詰らで反撃し、終了間際の林の７ｍスローにより、同点として後半を迎えた。

後半も一進一退の攻防が続くが、10分、上出の７ｍスローで北國３点リードとなる。しかし林のカットイン、河本の速攻などで残り５分、同点となる。呉のシュートでイズミがリードの場面、２点差にしたいイズミ林の７ｍスローを、またもや沖園がシャットアウトで、１点差のまま残り

1分を切る。ここでイズミ林が失格となった。残り2秒、北國中村のシュートが放たれるが、無情にもタイムアップとなり、イズミの2年連続3度目の優勝が決まった。

【男子】プレーオフ準決勝

・3月19日(日)

本田技研 19 (13—8 / 6—10) 18 湧永製薬

【本田技研】			【湧永製薬】		
得点	氏名	番号	番号	氏名	得点
0	四方	1	1	多田	0
0	池辺	2	2	森山	0
0	羽賀	3	3	下川	2
1	佐々木	4	5	浜本	0
0	斉藤	7	6	山口	3
0	加藤	8	7	中山	5
2	広政	10	9	小薮	0
0	阿部	15	10	ブラマニス	2
0	吉井	16	12	坪根	0
2	日原	17	13	小沢	5
6	ストックラン	18	14	田中	0
8	ヴォル	21	15	杉山	1
19 計	(ビューロー・リュプカー)				計 18

■粘る湧永に辛勝！　本田が決勝へ！

ヴォルのカットイン、中山のロングと両右腕のシュートで幕が開いたプレーオフ準決勝。本田はヴォルのミドルシュート、ストックランの多彩なシュートで着々と得点を重ねる。一方湧永は豪快な中山のロングシュートと、角度をとった小沢のサイドシュートなどで得点し、一進一退で進むが、吉井の好セーブもあり、本田が前半を13対8と5点リードでハーフを迎えた。

後半は、湧永ブラマニスのスタンディングシュートなどでジリジリと追い上げにかかる。14分、中山のこの日3本目となるロングシュートが決まり、3点差となった時点で、本田がタイムアウトを要求。そのまま3点差でゲームは進むが、下川の速攻で2点差となり、残り2分、本田加藤の退場時に小沢のサイドシュートで1点差。ラスト30秒、時間との闘いの本田だが、ここでミスが出て、湧永ブラマニスが拾い速攻になったが、ここで痛恨のオーバーステップ。無情にもタイムアップとなった。翌日への挑戦権は本田が握った。

プレーオフ決勝

・3月20日(月)

本田技研 31 (16—17 / 15—12) 29 大同特殊鋼

【本田技研】			【大同特殊鋼】		
得点	氏名	番号	番号	氏名	得点
0	四方	1	1	萩田	0
1	池辺	2	2	佐藤	0
1	羽賀	3	3	朴	9
6	佐々木	4	4	冨本	2
2	斉藤	7	6	中谷	2
1	加藤	8	7	市原	1
0	広政	10	8	藤井	5
0	阿部	15	10	末岡	1
0	吉井	16	12	日原	0
1	日原	17	15	南川	1
6	ストックラン	18	17	山本	0
13	ヴォル	21	22	白	8
31 計	(ビューロー・リュプカー)				計 29

■MVPヴォルの大活躍で本田の2連覇達成！

2年連続の顔合わせとなった決勝戦。本田佐々木のスタンディングシュートで幕を開けた。本田遅攻のミスを大同がうまくつなぎ、3連取。すかさず本田もヴォルの2連取で追う。大同リードのままゲームは進み、15分、大同藤井のポストシュートが決まり、10対7で本田のタイムアウト。18分には日原、池辺の連取で11対10、ここで大同のタイムアウト。一進一退の攻防が続く。残り90秒、ヴォルのロングで1点差に詰め寄るが、大同の1点リードでハーフタイムを迎える。

本田ヴォル、大同白の打ち合いで始まった後半、7分白の退場の間、ストックランのロングでの連取でこのゲーム初のリード。しかし朴がすかさずミドルで同点とする。その後白の連取やGK日原の好セーブで24対22とする。22分、大同のパワープレーの時間だが、ストックランの技ありのサイドシュートでリードする。緊迫した時間が過ぎる中、残り1分で本田1点リード。そしてダメ押しのヴォルのカットイン。接戦を全員でものにした本田技研の2連覇で幕を閉じた。

第23回全国高校ハンドボール選抜大会
男子は氷見、女子は桜花学園が制す

第23回全国高校ハンドボール選抜大会は、３月24日から28日までの５日間、大阪市中央体育館を中心に男女各36校が参加して開催された。

男子は、氷見（富山）対瓊浦（長崎）の決勝戦となり、名門・氷見が接戦を逃げ切り優勝を飾った。女子は桜花学園（愛知）対大分鶴崎（大分）の決勝戦となり、個人技に勝る桜花学園が終始優位に試合を進め、26―21で優勝を飾った。

第23回全国高校選抜大会を振り返って

大阪高体連ハンドボール部専門委員長　**勝本章裕**

大阪大会を終了したアリーナは、決勝戦の喧騒が嘘のような静寂である。その静寂の中、私自身安堵感はあるものの不思議に疲労感がさほどない。よく考えてみると、各仕事分担において、大阪の役員が自主的に責任感を持って業務をそれぞれがこなし、フォローし合い、大会を運営しているという連帯感が、私自身の気持ちを楽にさせてくれた要因であったと思う。個人のつながりが、網の目状に広がり、総役員数160名の方々に携わっていただいたことは、人と人のつながりの素晴らしさを感じた大会であった。

今大会より新たに加わりましたことは、30分ハーフの導入・１日１試合（Wヘッダー廃止）・立会人制度の導入です。事前の準備において手数はかかったものの、選手達のコンディションに無理もなく、スムーズな試合運営が行われたことは喜ばしいことでありました。試合においては、連日熱戦が繰り広げられ、各チームの様々な攻撃・防御にハンドボールの持ち味が生かされており、観客や役員を魅了しました。観戦した生徒達も、ハンドボールに対する熱意を感じ、多くの技術を習得してくれたものと思います。私個人としましても、「人生、感謝・感動」を実感した意義のある大会でありました。

最後に、各関係の方々に感謝を申し上げたいのですが、お世話になった方々が多すぎて、すべての方々一人一人に申し上げることができません。この誌面をお借りしまして、深く御礼申し上げます。

2000年度は、富山県氷見市での開催となります。益々充実した大会になりますことを祈念し、終わりの言葉と致します。

女　子

《準決勝》

大分鶴崎　19（10―8、4―6、（延長）2―0、3―2）16　福井商業

立ち上がり両チームとも好ディフェンスにより得点が奪えず、前半４分30秒、福井商業谷口のポストシュートから得点が動き始める。福井商業は、竹山、野路から長身の谷口のポストシュートと、野路のカットイン、竹内のサイドシュートで得点を重ねる。一方、大分鶴崎は大津の再三のインターセプトからの速攻と、梶並のポストシュート等で双方互角の好ゲームを展開し、10対８の大分鶴崎のリードで前半を終了する。

後半、福井商業は４分で速攻、７ｍスローで同点とするが、その後は、両チームとも勝ちを意識しすぎての慎重なプレーが目立ち、決定打がなく、14対14で延長戦になる。

延長前半、大分鶴崎ＧＫ藤間の好守からの速攻、牧のステップシュート、カットインシュートで優位に展開し、19対16で勝利を収めた。

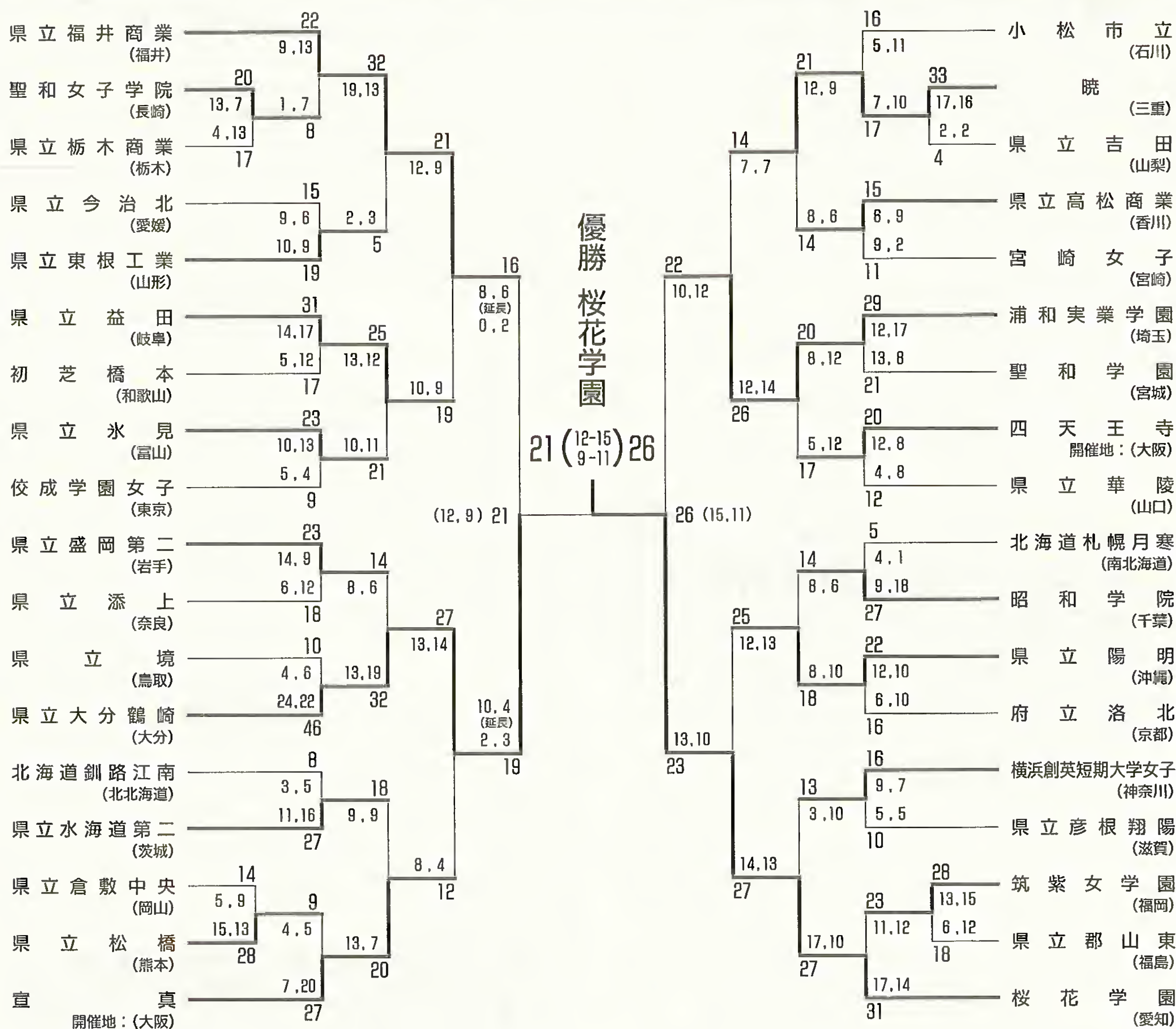


桜花学園　23（13―10、10―12）22　浦和実業学園

開始５分、お互い相手の様子を見極めるためか、慎重にゲームを進めた。中盤あたりから桜花学園長野の連続得点が決まりだし、桜花学園のペース。浦和実業学園は、千葉を中心に展開するも桜花学園の速いボール回しについていけず攻撃も単調。

後半は、前半の反省を生かしてか、浦和実業学園安斎のパスも安定し、確実に得点を重ね互角にゲームを進めた。後半15分過ぎに同点となり、両チームの特色を生かした作戦も決まりだし、残り３分、桜花学園水野のポストシュー

第23回全国高等学校ハンドボール選抜大会（女子）



トが連続に決まり勝負がついた。両チームとも、それぞれの特色を生かした試合内容であった。

《決勝》

桜花学園 26 (15—12 / 11—9) 21 大分鶴崎

開始早々から、桜花学園が着実に得点していくのに対して、大分鶴崎の持ち味の固いディフェンス・速攻も、動きの速い多彩なプレーの桜花学園に翻弄され思うようにできず、シュートも散発、焦りから攻撃のリズムを崩された。

後半も、桜花学園の速攻・フォーメーションと個人技に勝るプレーが続出し、守ってはGK野首の好守もあり相手の速攻を封じた。大分鶴崎は、前半立ち上がりの７分間、後半の空白10分間得点できなかったのが敗因。

男子

《準決勝》

氷見 29 (14—12 / 15—15) 27 興南

前半、氷見はセンターの酒井を中心に多彩な攻撃で得点を重ねる。一方、興南は、岡田の速攻とサイドシュート、東長濱のミドルシュート等で得点を重ね、14対12と氷見が２点をリードして終了した。

後半、興南は立ち上がりに東長濱のカットインと速攻で同点とした。その後、氷見の大道や赤尾などのミドルシュートで得点、一方興南は、速攻やミドルシュート等で得点を上げ、一進一退のゲーム展開となったが、終盤に氷見が、大島のサイドシュート、酒井の７ｍスローで連続２点を獲り、かろうじて逃げ切り、決勝に駒を進めた。

瓊浦 27 (12—4 / 15—14) 18 桃山学院

試合開始早々から、シュートの撃ち合いになるが、３分過ぎまで得点なし。瓊浦岩永が初得点し、その後、着実に得点して20分までに10対２で瓊浦がリード。桃山学院は、

第23回全国高等学校ハンドボール選抜大会（男子）

優勝　富山県立氷見

回戦	チーム	得点（前半,後半）	チーム	得点（前半,後半）
1回戦	県立兵庫工業（兵庫）	19（11,8）	久留米工業大学附属（福岡）	32（14,18）
2回戦	県立伊奈（茨城）	35（17,18）	久留米工業大学附属（福岡）	23（10,13）
2回戦	県立境（鳥取）	24（10,14）	北海道釧路江南（北北海道）	22（10,12）
2回戦	県立岩国工業（山口）	19（7,12）	興南（沖縄）	20（8,12）
2回戦	県立東根工業（山形）	14（6,8）	岡崎城西（愛知）	19（8,11）
2回戦	府立洛北（京都）	26（12,14）	県立岐阜商業（岐阜）	19（9,10）
2回戦	県立吉井（群馬）	12（7,5）	県立氷見（富山）	38（20,18）
2回戦	県立香川中央（香川）	17（8,9）	学校法人石川（福島）	15（6,9）
1回戦	駿台甲府（山梨）	19（10,9）	此花学院 開催地：（大阪）	28（14,14）
2回戦	此花学院 開催地：（大阪）	35（16,19）	県立神埼清明（佐賀）	19（11,8）
3回戦	県立伊奈	39（24,15）	県立境	11（2,9）
3回戦	興南	25（8,17）	岡崎城西	17（10,7）
3回戦	府立洛北	13（6,7）	県立氷見	25（9,16）
3回戦	県立香川中央	21（11,10）	此花学院	29（15,14）
準々決勝	県立伊奈	27（11,16）	興南	32（15,17）
準々決勝	県立氷見	34（18,16）	此花学院	23（13,10）
準決勝	興南	27（12,15）	県立氷見	29（14,15）
1回戦	浦和市立（埼玉）	23（13,10）	県立羽後（秋田）	22（9,13）
2回戦	瓊浦（長崎）	35（17,18）	浦和市立	24（10,14）
2回戦	北陸（福井）	35（18,17）	北海道函館工業（南北海道）	9（4,5）
2回戦	県立四日市工業（三重）	27（12,15）	県立紀北農芸（和歌山）	25（11,14）
2回戦	大分国際情報（大分）	32（16,16）	横浜商工（神奈川）	17（6,11）
2回戦	県立盛岡第一（岩手）	31（15,16）	県立河瀬（滋賀）	16（8,8）
2回戦	県立新居浜工業（愛媛）	15（6,9）	明星（東京）	24（14,10）
2回戦	県立東岡山工業（岡山）	16（7,9）	國學院大学栃木（栃木）	31（16,15）
1回戦	金沢市立工業（石川）	15（10,5）	熊本国府（熊本）	24（13,11）
2回戦	熊本国府	21（12,9）	桃山学院 開催地：（大阪）	22（12,10）
3回戦	瓊浦	22（8,9 延長 4,1）	北陸	20（7,10 延長 0,3）
3回戦	県立四日市工業	16（7,9）	大分国際情報	31（14,17）
3回戦	県立盛岡第一	30（14,16）	明星	24（16,8）
3回戦	國學院大学栃木	21（9,12）	桃山学院	30（12,18）
準々決勝	瓊浦	22（5,17）	大分国際情報	20（11,9）
準々決勝	県立盛岡第一	19（9,10）	桃山学院	31（14,17）
準決勝	瓊浦	27（12,15）	桃山学院	18（4,14）
決勝	県立氷見	25（12,13）	瓊浦	22（10,12）

25（12-10 / 13-12）22



４分過ぎに森と19分過ぎに兼本が獲った２点のみ。前半、瓊浦の岩永一人で10得点、一方的な点差で終了。

後半、桃山学院は、瓊浦の岩永をマンツーマンでマークする。15分過ぎまで互角の後半の得点７対７、合計19対11で８点差。桃山学院も、志賀が加点するも、瓊浦の小川が加点。残り５分まで24対17の７点差。前半の点差を縮めることができなかった。

《決勝》

氷　　見　25（12—10 / 13—12）22　瓊　　浦

試合立ち上がり、瓊浦岩永が先制ゴール。氷見も赤尾が中央からミドルシュートを決め１対１とし、11分過ぎまで４対４のクロスゲームとなる。その後、瓊浦が４点連取、一方氷見も18分から23分過ぎの５分間に５得点を大道の活躍で加点、９対９の同点とし好試合となる。残り５分、瓊浦岩永の１点に対し、氷見は大町のポストシュートと速攻で大島が決め２点差の12対10で前半終了。

後半立ち上がり、氷見が２点連取し勢いに乗るが、瓊浦岩永が頑張り、10分過ぎには17対15と接戦。その後、氷見大町のポストシュートなどで加点。瓊浦は、岩永が３点連取するなど白熱した好ゲームとなり１点を争う攻防で25分過ぎ22対20で氷見リード。残り５分、両チームに退場者を出すが、氷見大道が２点連取し試合終了間際に氷見大町が速攻を決め勝利を握った。

連 載 1

ナショナルトレーニングシステム（NTS）の新設実施について

NTS運営委員長　蒲　生　晴　明

1. はじめに

2000年をむかえ、日本ハンドボール協会はナショナルトレーニングシステム（以下NTS）を新設し、若年層からナショナルチームまでの一貫指導を実施します。

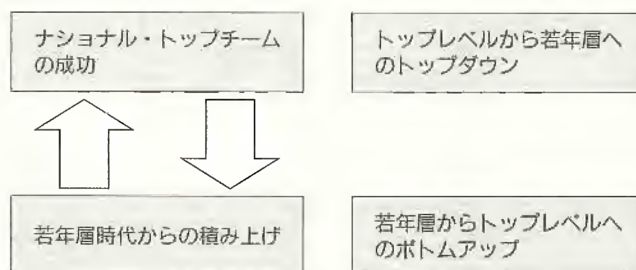
このシステムは、優秀なアスリートの発掘・育成・強化活動を実施すると共に、指導の一貫性をはかることによる指導者の育成、さらには各地区地域に新しいハンドボール情報を伝達していくシステムです。本年から第1回がスタートする訳ですが、ハンドボール界の関係の皆様のご理解と絶大なるご支援・ご協力が何と申し上げても必要であります。運営に関しては、課題が多いことも承知しておりますので、皆様からのご意見・ご指摘をいただきながらじっくりと構築していくことが重要なポイントであると考えております。日本ハンドボール界が21世紀にはオリンピック・世界選手権大会での常連国になる「夢」を抱き、実現に向かって皆様のご支援をよろしくお願いいたします。次にNTS新設についての背景などを述べます。

2. 若年層の強化とナショナルチーム

（1）日本のハンドボールは、男女ともオリンピック・世界選手権の出場を果たし、アジアのリーダーシップをとってきた。しかし、1988年ソウルオリンピックを契機に、その座を韓国に明け渡すようになった。

（2）韓国のみならず、アラブ諸国はジュニア層強化に相当の投資を実施し、その成果は顕著である。

（3）世界では、ヨーロッパ勢が相変わらず強さを発揮している。スウェーデン・フランス・スペインなどの国が勢いを増している。各国とも強化は、長期的な計画に基づいたものであった。アフリカでは、優秀なコーチをヨーロッパから招聘し、将来世界で戦える選手の育成に着眼点を置いた結果、エジプトがジュニアの世界チャンピオンになった。現在では、エジプトは世界選手権・オリンピックの常連国になっている。

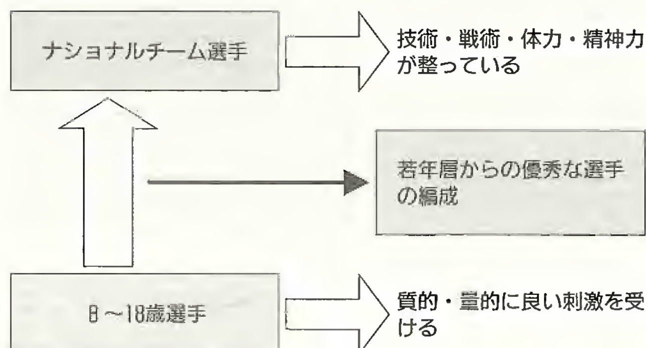


3. 長期的な展望に立った選手の育成

（1）世界の強豪国は、国の協会が主体性を発揮し、常に「世界のハンドボールが今どうなっているのか？」を意識し、若年層からナショナルチームまで、強化・育成について一つの考え方を示し、独自のスタイルを形成して強化を進めている。

（2）従って、特定の選手のみを集中的に強化している訳ではなく、運動能力の高い選手を低年齢時代から幅広く発掘し、その中から優秀な選手を編成していくシステムを取っている。

（3）ハンドボール選手として必要な要素は、技術・戦術・体力・精神力の4つである。それぞれの要素を育成していくには、8～18歳の発育段階で「その質・量」の与え方で大きく変化していく。この時期に最高の指導を受けたか否かで、大人になってからのパフォーマンスが大きく異なっていく。

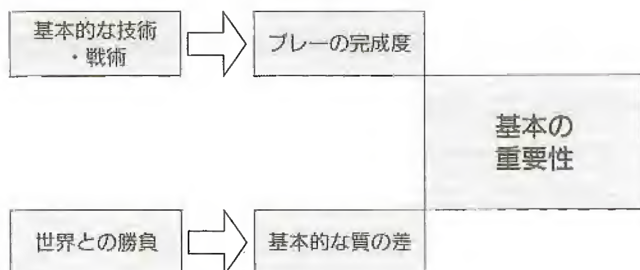


4. 基本の重要性

世界の強豪国は、体力・技術・戦術に長けているが、こ

れは、若年層時代にいかに「質の高い」指導を受けたかの証である。日本のハンドボールの課題は、どんな選手でも、誰でもできるような事、簡単にできるであろう事、つまりハンドボールの「基本的な技術・戦術」の完成度である。

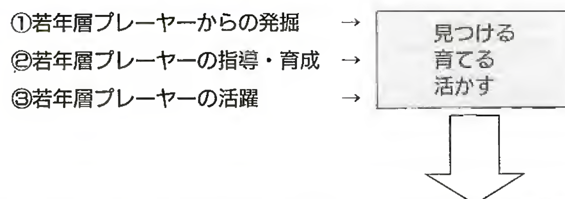
実戦で、瞬時に戦況を把握し、速く強く正確に効果的にプレーできるかが、基本的な「質」であり、世界を相手にした場合、その「質」の差で勝敗が決まるのである。



5. 今後の日本ハンドボール界の強化と若年層の育成

1998年4月より、下表の新体制で強化を推進している。この4チームの成功・日本リーグ・学生・高校それぞれのチームの強化・成功が当然必要だが、同時に若年層から、協会が主体となった一貫指導を実施していく事を忘れてはならない。したがって、世界で活躍できる選手を育てるために

ナショナルチーム	日本代表チーム
UNDER-23	学生代表チーム
UNDER-19	ジュニア代表チーム
UNDER-16	ユース代表チーム



ナショナルトレーニングシステム(NTS)の導入

上記の考え方として、新しいシステムを構築していく事が必要である。

今回、この考え方に基づいて、ナショナルトレーニングシステム（ＮＴＳ）新設を企画した。日本協会は、このＮＴＳを全国９ブロック・47都道府県ハンドボール協会と協力し、推進していく。

6. ナショナルトレーニングシステム(NTS)の新設

（１）目的

・若年層の運動能力の高い意欲のあるプレーヤーを、早期に発掘し、将来、世界で活躍できる可能性を持ったクリエイティブな日本代表プレーヤーに育成する。

・統一された指導方法に基づいた一貫指導を実施する。

・世界を目指した指導内容を実施し、指導者のレベル向上をはかる。

・各地区地域のチーム・指導者に新しいハンドボール情報を伝達する。

・以上を実施する事による普及発展。

（２）場所・頻度

各９ブロックの指定体育館（各県持ち回りとする）にて、実施する。ＮＴＳブロックトレーニングを１回／年実施する。

（３）対象者

・小学生・中学生・高校生×15名×男女＝90名×９ブロック＝810名。

・ＮＴＳコーディネーターが、任意に推薦選出した選手。全国大会優秀選手。

・推薦選手所属指導者・都道府県協会技術スタッフ。

（４）選考

各都道府県に一任する。優秀選手をＮＴＳブロックトレーニングに候補選手に推薦する。さらに、その中からＵＮＤＥＲに挑戦するセンタートレーニング候補選手を選考することにより、ＮＴＳ→ＵＮＤＥＲへ一貫した体制を構築する。

（５）指導スタッフ

ＮＴＳコーチ

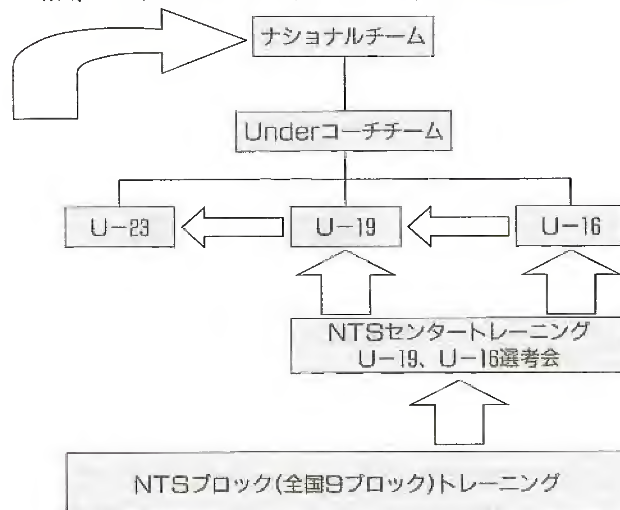
ＮＴＳでは、９ブロックにコーディネーター・インストラクター・デモンストレーターチームを置き、全日本選手・全日本選手ＯＢ・日本リーグスタッフ・学連スタッフ等があたる。さらに、ブロックには、技術委員長１名・都道府県に技術委員長１名を設置する。

（６）費用

・参加選手の交通費は、片道分補助。宿泊を要する場合、3,000円を補助。

・指導スタッフの交通費は、自己負担。

・指導コーチはボランティアとし、講師料は支給しない。



『スポーツと健康』2000.Vol.32 No.3 より

競技スポーツの立場から

市原則之 （財）日本オリンピック委員会選手強化副本部長

世界各国の競技水準が著しく向上するなか、日本の国際競技力は年々低下の一途をたどっているといわれている。こうしたなか、（財）日本オリンピック委員会（以下JOC）では各競技団体をサポートして各種の強化策を模索しているところだが、あまりにも課題は多い。一般的に事業の達成には、ソフト（体制）、ハード（施設）、ヒューマン（人材）の3部門が不可欠であるといわれるが、強化事業もこの充実なくして優秀な成績は残せない。スポーツ先進国ではこれら総ての面が整備されており、近年国際舞台での躍進が著しい中国・韓国においても、国家的支援によりこの3部門が充実し、その効果がメダル獲得数として顕著に現れている。経済大国の我が国では、本来、経済発展に比例させ国の支援によりスポーツ施設の充実を図り、国際競技力の向上に結びつけてくるべきであったが、残念ながら今日まで、競技力向上のほとんどの面を学校と企業に委ねてきた。ところが、社会環境が変化する現在では、小・中学校は少子化の影響で、学校単位での活動が困難な状況もみられ、また企業はかつて経験したことのない構造的不況で、運動部の休・廃部を余儀なくされるという、日本のスポーツ界の競技力低下が懸念される苦難の時を迎えている。

JOCではソフト面で不可欠な、ジュニア期からトップアスリートまでの一貫した指導体系のモデルづくりを急務と考え、昨年度より文部省の5年間にわたる予算を受けて、現在7競技団体にマニュアルづくりのご苦労を頂いている。またハード面においてスポーツ医・科学推進体制の中核となる「国立スポーツ科学センター」も完成間近で、医・科学面の充実が図れることはたいへん喜ばしい。しかし、これら両面とも、継続には幾多の課題を抱え、少子化で地域に放り出された学校スポーツの受け皿や、その指導者の身分保障などヒューマンウエアの部分にも課題を残している。

いずれにしろ、国際競技力の向上には莫大な資金が必要とされる。ましてや、JOCが究極とする“オリンピックを通じて、世界平和の火を永遠に灯し続ける”ことを推進するには、今後多くのアスリートをオリンピック大会に送り続けなければならない。しかしながら、多くの財政赤字を抱える国や、長引く不況に喘いでいる企業からは、従来のような支援は難しくなると予測される。したがって、これからは自主財源をいかに多く確保するかということが各競技団体の大きな課題となり、各役員は強化財源の確保に奔走するであろう。

こうした意味で、「スポーツ振興くじ」は、スポーツ界全体の悲願であり、その実施に大いに期待している。同時に、せっかく多くの国民の参加によって得た「スポーツ振興くじ」の浄財の配分も、可能な限り規制緩和を図り、スポーツ団体等が活用しやすく、配分額以上の付加価値が生まれるような配慮も合わせて要望するとともに、われわれスポーツ関係者も、それぞれの立場でこの浄財を生かして、我が国のスポーツ振興に努力していきたい。

スポーツとは、本来明るく爽やかなものであり、国民に希望や活力を与えてくれるものと信じている。「スポーツ振興くじ」が我が国のスポーツ文化のいっそうの発展につながるように、心から期待するところである。

平成11年度
コーチ・レフェリーシンポジウム報告①

平成11年度コーチ・レフェリーシンポジウムが3月10日（金）～12日（日）の3日間、国立オリンピック記念青少年センターにおいて開かれた。中学・高校・大学・実業団の様々な段階で活躍する指導者・審判が、北は北海道、南は沖縄までの日本全国から集まり、多くの講演・発表と熱心な討論が繰り広げられた。

今号から7月号まで3回にわたってその模様を報告していきたい。

【第1日目】

開会挨拶

日本ハンドボール協会競技本部長　大西武三

熊本での世界選手権、準決勝フランス対ロシアの試合は、一つの作品として見るものに多くのものを与えてくれる、再度見たいと思うようなゲームであった。「一生一品」と言えるようなゲームができるように選手、レフェリー、指導者全体が一体となって取り組んでいけるようにしたい。

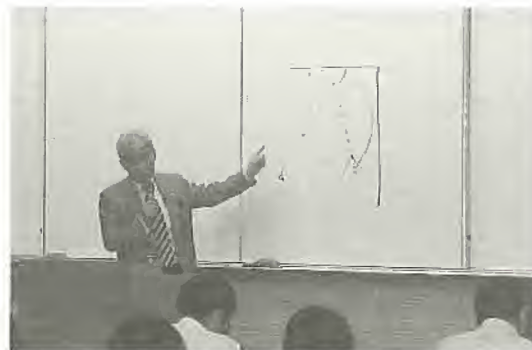
—感動の試合の一部をVTR鑑賞—

富山国体から有資格者がベンチに入ることが望ましいとなっている。協会としては、2007年から義務づけとなる点をご承知おき願いたい。C級スポーツ指導員などの養成講習会を、県の体育協会と競技団体協会と連携して、実施していってほしい。公的資格の取得は、社会的な要請として必要となってきている。

レフェリングについて

日本協会審判部長　斉藤　実

このところ、国内諸大会において、選手・トレーナーの過度なアピール、反スポーツマンシップ的行為が非常に目につく。これは無垢な観客に良い印象は与えない。そしてその原因が、レフェリーサイドに全くないとは言い切れない。今後、選手・トレーナー、そしてレフェリーの3者の意識の融合、より深いコミュニケーションが必要である。また、先日行われたアジアハンドボール選手権・シドニーオリンピックアジア予選において、日本選手の細かいステップがオーバーステップとして判定されることが多々あった。日本国内において、甘い間違った判定にナショナル選手が慣れてしまうことは強化の面から見ても決して良いことではない。これからも、レフェリーの質の向上に努めなければならない。そのために、レフェリー諸氏は人格を高めるようにすること。他人の言葉を良く聞くこと。鍛錬をすること。そして、レフェリーをすることに喜びを持つことが必要である。



斉藤審判長の講義

鍛錬の面で言えば、参考までにIHFでは国際大会において、審判員にクーパー走・3段階のシャトルランを実施している。酸素不足で判断力が鈍らないようにということである。その点を念頭において、鍛錬する姿勢を持ってもらいたい。

協会審判部の活動として、先に述べた3者の融和を目的として、ナショナルチームの合宿でトップレフェリー研修会（各ブロック推薦の1ペア）を実施した。これをブロックに持ちかえり、ブロック大会での研修会の実施による浸透を図ったが、残念ながら機能をしなかったようである。

来年度、日本リーグ担当レフェリーの質を向上させていくつもりである。担当を30ペアとし、均等に割り当てていく。研修も、本年度行ったトップレフェリー研修会のよう


熱心にビデオに見入る参加者たち

なものを受けさせ、参加できないペアは振り落としていく方針である。

アジアハンドボール選手権、シドニーオリンピックアジア予選における、レフェリングについて感じたことはスロベニア・クウェートのレフェリーは、細かいステップはオーバーステップと判定するケースが多々あったこと。また、ポストプレーにおいて、まず3歩3秒プレーをさせる、それに対して反則が繰り返される場合7mT、さらに罰則が加えられる傾向が見られた。

審判審査指導委員長　加藤雅之

前年度のA級審査会は、実業団選手権で実施したが、今年度は6月の予定である。B級審査会は5会場で実施する。JHAレフェリーコースは若い方を中心に14名で実施し、実業団OB対象の実業団レフェリーコースも実施した。

日本リーグ審判団の研修会においては、判定基準の全国統一、ペアの中でも異なっているものを揃えるように努力を促した。

その他目標として、各種大会の審判会議の記録を必ずとり、各都道府県で普及させること。競技時間の遅延を防止すること。オフィシャルとの連携の重視、審判員のレフェリング以外でのマナー向上、他審判の研究を重視していくこととする。

（質疑応答）

質問：ジャックルの判定について。
…捕りそこないはジャックルではない。

質問：キックボールの判定について。
…ケースの如何によらず、足にボールがあたった時点で判定するべきである。

今後の指導者のあり方

日本ハンドボール協会専務理事　市原則之

女子コーチ黄氏を招聘して強化をはかった結果、五輪アジア予選では健闘することができた。だが今後、日本としては抜本的な改革を図っていく必要がある。他協議でもみられることだが、国際試合での実績が上がらないことから日本のハンドボールの弱体化が指摘されている。本当に以前より弱くなっているのだろうか。

実は成績が下がってはいるが、競技力はむしろ上がっているのである。現代では強化には資金が必要であり、国家をあげてのスポーツ強化システムを持っている国には勝てなくなっているのである。わが国でも国家的事業としてスポーツ強化をしていかねばならないだろう。そして、強化事業を展開していく上で必要なことは次の3つのような事であろう。

1. ソフトウェア：
強化一貫指導システムを構築。
2. ハードウェア：
規制緩和（学校開放など）とNTS構想の具現化
3. ヒューマンウェア：
指導者の養成とレベルの向上。指導者同士のコンタクトも必要であり、指導体制を小→中→高→大→実業団と不易のものとして残していく必要がある。さらに、トップダウンで地域にも根を張らせていく。以下に、これらに携わる指導者として必要と思われるものを挙げる。

人材育成の基本

「見つけ・育て・活かす」を一貫化していく必要がある。

他競技と連携しながら、指導者としての度量と広い視野を持って臨まなければならない。人の隠れた良い面を見つけ出し、根気よく育て、勇気をもって登用する。

21世紀の展望

時代の流れを敏感に感じとる、指導者自身の観察力の養成が必要。チームワークとは自分のポジションに責任を持つことである。

①自己責任化：依存体質から脱却すること一国の独立は個人の独立からである。

②財政の再建－実業団への依存から、「がんばれハンドボール10万人会」の発展へ。

指導対象の把握

学校・社会・競技の各スポーツ段階の特質をつかむこと。「好きにさせるのか」「強くさせるのか」という目標を、明確に把握して指導にあたるべきである。

指導者としての自分自身の把握

「選手が主役」の自覚を持つことが必要であり、自らをてのひらに乗せて観察する。

①独裁型②民主型③放任型

指導者の仕事

①前任者の仕事の後始末：前任者の長所と短所を判断して対応する。前のものをなしに使用するのではなく良いものには水をまくべき。

②自分の考えで事業を興す。

③後継者の養成と将来の種まき（一貫指導の基本）。

指導者の３つの要件

①積極性（率先垂範・威風堂々）

②楽観性（勝負は時の運、トレーニングを休ませる勇気も必要、練習に明け暮れて自分だけが満足していないか）

③創造性（夢を与え、ロマンを語る）

指導者の10の心構え

①相手の感情を理解する（指導する相手は人間であり感情の動物である）

②選手の一生の責任を負うつもりで指導する（最高権力者にあらず最高責任者たれ）

③潜在能力の引き出し（指導者は成長の手助けをするアドバイザーである。恩を売り礼を求めてはいけない）

④全習法と分習法（中心視と周辺視・加点法と減点法の使い分け）

⑤常に敗者復活を（競争社会の基本）

⑥自主能力の育成（指示待ち選手では戦えない、仕事と労働の違いがある。強くする指導と好きにさせる指導の区別）

⑦固定観念・既成概念の撤廃（インターネット社会の中に、指導者の老化現象がみられる）

⑧環境作り（環境の整理整頓）

⑨忍耐（選手との我慢比べ、精神力と基礎体力務トレーニング）

⑩厳しく鍛える（人間は強し、鍛えればいくらでも向上する）

これからの指導者には、豊かな社会環境の中で、選手に新たな価値観を見いださせるための知恵と工夫が必要であり、変革の著しい社会状況下にあっても、充分に適応できる柔軟性をも兼ね備えておくことが必要である。

しかし、いつの時代でも、「この世は人の世」であることにかわりはなく、選手を動かすためにはその人の“心”を動かさねばならない。そのためには、自らの“心を磨き、徳を積む”努力を心掛けねばならない。そしてスポーツを文化として意識できるジェネラリストとしての道を歩んでいかなければならないだろう。

（質疑応答）

Q：ハンドボールはプロ化を目指すのだろうか。

A：プロでは生活していけないだろう。野球やサッカーとは観客動員の容量が違うので、スポンサーが個人的につくという欧州クラブスポーツ型を目指すべきである。観客収入だけでプロチームを維持していくのは不可能であろう。

平成11年度A、B級審査会及び全国大会評価から

審判審査指導委員会委員長　加藤雅之

平成11年度の標題の日程、場所、大会名、担当者などの報告は、別紙にて各ブロック審判部長へ渡してありますが、例年のように審査指導委員が標記審査会や大会評価で、特にレフェリー諸氏にこれからのレフェリングに取り入れてほしい事例等をお知らせ致します。

(1) オフィシャルとの連携（コンタクト）について

ルールブックにはタイムキーパー、スコアラーに必ず知らせる、通告しなければならないという条文も多くあり、必携には「審判に関する留意事項」の中にも記載されている。レフェリーが吹笛するにあたっての各種の資料や、講習会、審判会議などにおいても「オフィシャルとの連携」については、欠くことのできない、必ず触れている事柄であり、レフェリー諸氏も耳にタコができていると思うが、現実には受験者や全国大会では、オフィシャルを無視したり、ゴールイン、警告のナンバーを通告しても何の反応を示さぬオフィシャルでもゲームをどんどん進行させている。オフィシャルとの善し悪しは、そのレフェリーと、ペアの能力をはっきりさせてしまうものである。

スローオフの開始時から、各種のタイムアウト。罰則の適応時のナンバーの通告。7mスローその他の計時開始のスロー等、オフィシャルへ確認してスムーズな運営につなげてほしい。平成12年度はオフィシャルと、ゲーム前にしっかりと打ち合わせをして、この場面では手をしっかり挙げ、カードをまっすぐに挙げてくれとか、今日は観衆が多いから笛の音を強くとか、お互いの信頼関係を築き、オフィシャルの使う笛の音も確認したならば、なお素晴らしいのではないか。

(2) ハンドボールは格闘技だと言われている

われわれレフェリーは、この言葉に惑わされたり、振り回されてはいないだろうか。たしかにハンドボールは身体接触が許されている。だから格闘技だ、粗暴さや汚い反則が少々あっても仕方がないのだと、思ってはいないだろうか。あれだけのコートの中で、14人のプレイヤーがシュートを決めようとし、それを阻止しようとするスポーツであるが、それをレフェリーはルールの中でも特に8条、17条を駆逐し、両者の衝突をクリーンなプレーにさせ、アドバンテージを使ってスリリングなゲームにする。粗暴なプレーは絶対許さない勇気ある吹笛技量のレフェリーが必要となる。パーフェクトな笛は見たこともないが、勉強不足のレフェリー、トレーニング不足のレフェリーが、いかにうまく吹こうとしても現在のハンドボールでは、化けの皮は直ぐに、はがされてしまうものである。「ハンドボールのために生まれてきたようなプレイヤーだ」という言葉は聞いたことがあるが、「笛を吹くために生まれてきたようなレフェリーだ」はあまり聞いたことはない。それはその人の人格、研究心、そしてハンドボールのプレーに常に接していなければ、優秀な審判技術の習得はむずかしいと思われるからだ。今、レフェリーは吹笛のチャンスに恵まれていない。たとえば夏の大会の指名があったとしても、ゲーム数の少ない県からだとブロック大会を含めても充分なゲーム数をこなして来ているとは思えない。学連に依頼をしてリーグを吹きにいくペアもある。素晴らしいプレーをさせるためにも、一つでも多くの経験を自ら積んむべきである。

(3) 大会中のレフェリーの服装とマナー

特に夏の大会で見られるのは、宿舎から短パンツにサンダル履きで会場へ向かうレフェリーの多いこと。二日目あたりの反省会で審判長から注意が出されるのが恒例になっているのではないか。宿舎や会場でのチーム役員、選手との接触は不要な疑惑を生むものであることは、何度となくいわれていることである。知り合いのチーム役員でも期間中はあいさつ程度に。

休憩も大切であるが、会場の審判席で1ゲームでも多く同僚のレフェリングをみられて良いところを取り入れて各県へ持ち帰ってほしいものです。あなたは県、ブロックの代表です。

アジアハンドボール選手権 兼シドニーオリンピックアジア予選 のレフェリングから

審判委員長　斉藤　実

平成12年1月24日～30日の間、熊本県の熊本市・山鹿市・松橋町で行われた、標記大会のレフェリングについて感じたことをまとめてみます。

当初今大会に対してAHFから、レフェリー集団はクウェート・ヨルダン・サウジアラビア・中国・韓国・日本で編成する旨の連絡があった。日本協会国際部と検討し、折角日本で開催するので2ペア派遣の用意があることと、ニュートラルであるIHFからの派遣審判員を呼ぶ必要があるだろうという要求を提出した。

その結果、IHFからはスロベニアから1ペア、日本から2ペア、合計8ペアのレフェリーで運営するという回答がきた。

私はスロベニアからのレフェリーを関西空港でピックアップし、熊本まで同行した。この間の話で、彼等はシドニーオリンピックのレフェリーとして行けるだろうということ、ノルウェーでの女子世界選手権を担当し、昨年の国際試合は約50試合経験しているということだ。スロベニアのNo.1レフェリーであり、ヨーロッパでもかなり活躍している。

今回のレフェリーは、AHFの指名であり全員IHF公認審判員であった。担当決定はテクニカルコミッティーで決め、各試合ごとにレフェリー担当確認書を発行し確認していた。

これは過去試合直前に担当レフェリーを交代させたということに対する反省かどうかは判らない。

結果的に今回はスロベニア4、クウェート4、中国3、サウジアラビア2、ヨルダン2、日本2、韓国1、日本1ゲームを担当した。

常に2地域で試合が行われたため、全員のレフェリングは見られなかったけれども、その中で感じたことを記してみる。

この中で中国、ヨルダンは判定基準の不安定さ、アドバンテージを含めた競技運営の妙に欠け、特に中国のレフェリーは、コート上での姿に未熟感が漂い、全幅の信頼を得難いのではないかと感じた。

スロベニア、クウェートはそれぞれ4試合担当したが、やはりそれなりの安定感があり、相当経験を積んでいるなという感じであった。彼らのレフェリングと現在の日本のレフェリングの相違点を私なりに以下のように挙げてみる。

1. ゲーム再開のプレーをいい加減にしない

フリースロー、スローインでゲームを再開する際、動きながらパスしそれで良いとしているケースをよく目にする。これには、ゲームを出来得る限りスピーディーに展開させようとする、良い意味で云うならば親心的扱いがあると思う。しかし、これは間違いである。彼らは再開のプレーはしっかり止まって行わせており、決して見逃さなかったし、ルーズなゲーム展開はさせなかった。見習わなければならない。

特に大きな発見は、私自身も過去何の疑問も持たずに展開させていたことで、それが間違いであることを発見した。

それは、ボールを持っている自分にフリースローが与えられた。しかし自分はコートに倒れている。味方は速攻が出来ると走っている。自分は倒れたまま味方にパスを出した。私はこれはナイスプレーとして扱ってきた。しかし、今回のスロベニアのレフェリングではこのケースはすべて元に戻し、立ち上がらせたパスから再開させた。ゲーム後、スロベニアレフェリーとこの件に関して話した結果、彼らは、「倒れたままパスを出すことは、非スポーツマンライクである。従って、立ち上がらせてプレーさせなければならない」。

2. オーバーステップの見解

昔からこのオーバーステップに関しては種々議論されるところである。日本国内に於いて、或はペア間ですら基準の違いを見せつけられる場合がある。ルールは皆判っている。しかし自分のリズム作り、研究不足等から現在の日本のオーバーステップ判定は、総体的に甘い。しっかりした統計を取らなかったので申し訳ないが、今回の予選では男子では日本、女子では朝鮮民主主義人民共和国について日本が多くオーバーステップを判定されたように思う。小・中・高・大・シニアと一貫した判定基準を持たないと、日本代表チームが海外で代表権を争う大事なゲームに戸惑いを持たせてしまい代表権獲得の大きな障害となってしまう。

特にアジアのプレーには細かいステップを用いるプレーが多いということが、ヨーロッパ諸氏には先入観としてあり、オーバーステップと判定したが早いのではないかと思える場面もなきにしもあらずではあるが、現実に判定されていることから、プレーヤーを育てるために、レフェリーはステップ研究にエネルギーを注ぐ必要がある。

今回の判定事例では、フェイントをかけてから動くことにはそれ程大きな特徴

はないが、走りながらワンフェイントを入れるとほとんどオーバーステップの判定対象となっていた。ただ彼らの優れているところは、そのゲームを通じて基準が一定していることであった。日本のゲームでよく見られる、今のがオーバーステップならば、それより多く歩いたと思われる先程のステップはどう考えたら良いのか、という判定が非常に少ないことである。

我々はもっと謙虚にステップに関して研究をしなければならない。

3. 7m スローと段階罰の判定に関して

ポストプレーヤーにパスが通った時、ディフェンスがポストをしっかり自分の前に置いてマークするならば問題ない。ディフェンスはまずこのフットワークを身につけることと、ポストマンが回転できない密着マークを研究する必要がある。ポストマンの利き腕側にまわられて、なおかつ反則を継続しシュートできない状態に追い込んだとすれば、ほとんど段階罰が付いた 7m スローと考えておくべきであろう。今回このポストに対するディフェンスのあり方について考えさせられる場面が目に付いた。

さらに、この場合シューターが着地シュートあるいはラインクロスをしている場合、しっかり 7m スローにすべきで、相手が反則しての着地だから得点を認めてしまうといった、中途半端な運営は禁物である。

最近トリッキーなパス技術も見られる。たとえ反則されていてもパスを出すパワーと技術が開発されている。こうした中でレフェリーの仕事は何か。ボール保持者に 3 歩 3 秒プレーさせることである。ゴールエリアライン付近でのポストマンとディフェンダーとの争いにおいて、笛を早く吹いてしまったことで決定的な得点チャンスを失わせることがないように運営しなければならないし、IHF レフェリーは 3 歩 3 秒を自分に言い聞かせていた。

総体的に日本のレフェリーは決して下手ではない。しかし、パワー、テクニック、スピードがさく裂する国際試合の経験が他国に比べて少ない。それ故身体接触時の判定に一貫性が欠け、気後れ的雰囲気が出るために信頼感を失う危険性があるので、今後さらに、国際的経験が積める環境を作っていかなければならないと考えている。

それにつけても、国際レフェリーを目指す者は、語学の習得にエネルギーを注いで欲しい。前述の気後れはこの語学力不足から生じると思われる。今後は各国の IHF レフェリーは 3 ペア以内に制限されるようになる。国内における推薦も当然語学力を優先しなければならないであろう。国際レフェリーを目指す諸君、一日も早く語学研修に入れ！

審判委員会インフォメーション

平成 11 年度　失格・追放報告事例

審判部

大会名	適用	内　　容
全国高校選抜大会	相手に対する動作	速攻に出、シュートしようとした興南高校の選手を、岡崎城西高校の選手が、側方より腕を引っ張り倒した。
九州クラブ選手権	相手に対する動作	別府クラブの選手がフェイントをかけて右方向に移動中、大分クラブの選手が斜め後方より出した腕が、相手の首にかかり倒した。
長崎県高校総合	非スポーツマンシップ	長崎南高校役員が、自チーム選手に対する失格措置に対し、「何もしてない」等の発言があり、注意したが静止しないのでイエロー、その後もアピールを大声で繰り返したため失格とした。
長崎県高校総合	非スポーツマンシップ	センターライン付近において、両校の選手がボールを奪い合って交錯した。その際長崎南高校の選手がキックしたため、青雲高校のボールになった。この時、反則した選手が自陣に帰りながら、後ろの足を高く上げて蹴るような行為をした。

長崎県高校総合	相手に対する動作	瓊浦高の選手が単独速攻に入った。シュート態勢に入ったところで、追走してきた西彼杵高の選手が腕を引っ張りシュートを妨害したため危険な行為とみなした。
日本リーグ	非スポーツマンシップ	大同特殊鋼の朴選手カットインの際、車体の清水選手がホールディングをした。朴選手も腕を振り払ったので両者退場とした。朴選手退場の際「アホ」と暴言を吐いたので失格とした。
日本リーグ	非スポーツマンシップ	試合開始直後より大和ベンチが審判の判定に対し文句をつけていたため注意を与えていた。その後大同の監督がサイドラインを踏み越えてコートに入ったので警告を与えた。さらに大崎のカットインプレーに対し、総監督がクレームと共に侮辱的な態度をとったため失格とした。
国民体育大会	相手に対する動作	香川県の選手が相手ゴールエリア付近でリバウンドボールを取りシュートしようとした際、沖縄県の選手が後方よりプッシングした。シューターはシュートした後相手GKと接触し倒れたので、危険な行為とみなした。
国民体育大会	相手に対する動作	千葉県が攻撃中、熊本県選手が相手のボール保持選手の後側方向より、ホールディングで抑え倒した。危険な行為として失格とした。
国民体育大会	相手に対する動作	東京都選手が、攻撃中の埼玉県選手（空中でボール保持中）にプッシング。押された選手はそのまま床に落ちた。危険な行為として失格とした。
男子全日本総合	非スポーツマンシップ	決勝終了後、本田の選手が清水審判員に、「相手から金を貰っているだろう」と受け取れる言動があったと報告。 後日、審判長名にて、本田チーム部長・監督にチームの人間教育に関しての指導要請文を発送済み。
全国高校総体	相手に対する動作	紀北農芸高の攻撃中、仙台商業の選手が相手の首に上腕を巻きつけ倒したので、危険な行為として失格とした。
全国高校総体	相手に対する動作	此花学院が速攻からシュートしようとしたところ、北陸高の選手が、後方より腕を引っ張り倒したので、危険な行為として失格にした。
全国高校総体	相手に対する動作	岐阜商が速攻からシュートに入ろうとしたところ、市川高の選手が右後方の視野外から突き飛ばしたので、危険な行為として失格にした。
全国高校総体	相手に対する動作	伊奈高が速攻に出、右に展開シュートしようとしている選手に土佐高選手が、後方より体当たりをしながら、さらに腕を引っかけて倒したので、危険な行為として失格にした。
四国国体予選 少年	相手に対する動作	愛媛が速攻で攻撃中、それを追いかけた高知選手が、愛媛選手を背後からひっかけて倒したので、危険な行為として失格とした。
高校選抜 愛媛予選	相手に対する動作	松山南高が速攻に出、ジャンプシュート態勢に入った時、新浜工高選手が跳びかかるように防御し、結果後頭部から落下し転倒したので、危険な行為として失格とした。
北信越高校 選抜大会	非スポーツマンシップ	北陸高ゴール前でのフリースローを、GKが走りながらパスを出したので、やり直しを命じた。これに対し北陸高監督が「今のでいいじゃないか」との抗議が執拗にあったので警告、さらに「お前の指示に従わなければならないのか」と発言したので失格とした。
北信越高校 選抜大会	非スポーツマンシップ	ディフェンスの三条工高選手が、ボールを持たない氷見高選手を、故意に両手で強く胸を突いた。レフェリータイムを取り、スポーツマンシップに反する行為と判断し、失格とした。

愛知県でスポーツ指導員養成講習会・専門教科終了

このほど、愛知県ハンドボール協会で開催されましたスポーツ指導員養成講習会、専門教科の講習が終了し、その合格者が発表されましたので、広報いたします。共通教科の合格を持って資格取得となりますが、今回合格なされました方々には、共通教科も是非修了され、資格取得を達成されますようお願いいたします。

本年富山国体より、国体チームの指導者は公的資格を持つことが望ましいとの一文が要項に加えられます。また2007年よりは、公的資格の義務づけ完全実施の方向にあり、この資格の重要性がますます高まってきます。

平成11年度財団法人日本体育協会公認C級スポーツ指導員養成愛知県講習会

1．目的

地域において、スポーツ活動を実施しているクラブやグループ、スポーツ教室で、特定競技種目の基礎的なスポーツ技術や、一般的な身体活動の指導を行う指導者の養成を目的とし地域社会におけるスポーツ指導者資質の公的認知を得るために、文部大臣認定「社会体育指導者の知識・技能審査認定事業／地域スポーツ指導者初級養成講習会」として実施する。

2．主催

（財）日本体育協会　（財）日本ハンドボール協会

3．主管

（財）愛知県体育協会　愛知県ハンドボール協会

4．開催期日

平成11年11月３日（祝）～平成12年１月30日（日）※６日間　40時間

5．開催場所

ブラザー工業体育館　他２会場

6．講習内容（専門科目）

基礎理論［10時間］

「ハンドボールの特性とコーチの役割」「ゲームにおける攻撃と防御論」

「対象に応じた指導内容と指導技術」等

実技［24時間］

「個人技能」「集団技能」「チーム技能」「現場における救急処置」

「ハンドボール選手のための体力トレーニングとその実際」等

指導実習［６時間］

「年齢別の指導方法」「個人技能・集団技能の指導方法」等

7．講師

野田清（日本協会常務理事）蒲生晴明（中部大学監督）楓健児（県協会審判部長）

佐藤友紀（小中体連部長）鵜飼克博（県スクール部長）山本充伺（ベストコンディション）

田中俊行、伊藤諭志、大橋晃、佐藤壮一郎（以上県協会強化部）

8．受講者

33名

受講生の感想（抜粋）

ハンドボールの強化という視点から具体例を挙げながら展開されたこの講座は、ハンドボールの指導者として経験の浅い私にとって、今後、ハンドボールを指導していく上でとても参考になった。・・・・様々な方法や理論を学んで今まで気づいていなかったことに気づかされたり、単純なことでも理論として学ぶことで新しい発見があった。そして自分自身のハンドボール観が変わったような気がする。これらの理論を自分の物にして指導実践で生かし、より良い指導者を目指したい。（11／３ゲームにおける攻撃と防御論）

子供達の身体の形態的特徴、機能的特徴、精神構造の変化に応じて、非常に多くの工夫をこらして、ハンドボールを提供していることを知った。・・・・この時期の運動経験は、その子供の将来の運動能力に大きく影響することを考えると、非常に重要な位置にあることを改めて実感した。（11／28対象に応じた指導内容と指導技術［小学生］）

トップレベルの理論や指導法を提供していただいたことは、大変貴重な経験となりました。実際に選手を使って指導していただいたことは、とても理解しやすかったですし、すべての選手が指導者の理論をほぼ完全に理解して取り組む姿勢は、とてもよい刺激となりました。・・・・・今後もこの実技講習での成果があらわれるよう、様々な観点から練習を検討していこうと考えております。（12／12ハンドボール選手のための体力トレーニングとその実際）

私の指導には、生徒と共に動く・考える・見せる・イメージさせるを主幹としています。同時に見逃してはならないケガ、事故への予知が指導という一方的な考え方のみで薄れていた点を見直すことができました。ハンドボールという魅力を知る者こそ、現場における救急処置を、第一優先として正しい知識を日常から反復します。（１／22現場における救急処置）

平成11年度　C級スポーツ指導員養成講習会専門科目合格者

氏　名	勤務先
吉田太郎	市立桜台高等学校
山中昭信	岡崎城西高等学校
川瀬秀一	愛知高等学校
武山隆亘	市立冨田高等学校
杉本匡巨	県立蟹江高等学校
村上大作	トヨタ自動車㈱
石本　豊	トヨタ自動車㈱
山森修司	県立佐織養護学校
本山慶樹	名城大学
津田訓弘	春日井市立知多中学校
清水　徹	大平工業㈱
青木久美子	豊田市立逢妻中学校
日高知子	桜花学園大学
坪井雅典	県立知立東高等学校
米津　浩	アイシンAW
窪田信之	スポーツ産業研究所
三矢恭子	杉安工業㈱
黒川　瞳	名機製作所
尾崎夕香	豊田信用金庫
馬渕由美子	ブラザー工業㈱
中西哲也	トヨタ自動車㈱
伊東　毅	フタバ産業㈱
岡　悦子	県立港養護学校
日比野紀子	名古屋市立名塚中学校
門野裕彦	春日井市立坂下中学校
藤本巳由紀	豊田工業高等専門学校
澄川清志	行政書士
加藤栄子	主婦
檜崎　潔	中京大学　学生
各務宗孝	中京大学　学生
池渕智一	岐阜聖徳大学　学生

3冠、林五卿の手腕

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw（フリースロー）

イズミが女子の3冠をつかんだ。国体を除く全日本実業団選手権、全日本総合選手権、そして日本リーグ制覇である。3冠は1987年度から90年度まで4年連続で達成した大崎電気以来9年ぶりである。その名門OSAKI　OSOLがプレーオフ準決勝で北国銀行に敗れた瞬間に休部になったのは、誠に残念でならない。試合後の記者会見で矢内浩監督がこらきれずに流した涙は、こちらまでもらい泣きしそうになった。情熱を傾けてチームづくりに励んできただけに、その悔しい気持ちは十分すぎるほど理解できる。

レギュラーシーズン3位に押し上げる活躍を見せた金賢玉、宋知姈の韓国コンビが契約切れから不在の中で最後の意地を見せつけた選手に、心から感謝の気持ちでいっぱいだったのだろう。結果はついてこなかったが、ここまでの体験は貴重だ。本当に選手のみなさんにはごくろうさんと言いたい。今後はそれぞれ新たな道での活躍を祈りたい。

さて、イズミの3冠に話を戻そう。決勝は苦しみ抜いた。先手、先手を取られた試合展開は、予想もしなかったはずだ。前年と同じ顔合わせ。楽勝しているだけに、気持ちにスキがあったのかもしれないし、逆に「あと1勝」へのプレッシャーがあったのも事実だろう。やはり勝負はやってみなければ分からないものだと、つくづく感じた。

その3冠達成を成し遂げたイズミ・セブンで、一際感極まったのが、監督兼任の林五卿だった。世界のMVPにもなり、世界選手権、オリンピック金メダリストも、さすがに「この勝利がこれまでで最もうれしい」とさえ言ったほどの“難産”した3冠だったと言えよう。

妥協を許さぬハンドボールに賭ける情熱は並大抵ではない。タイトルを握るために、選手は幾度となくコートに涙を落としてきた。練習では集中しろ一が口癖だった。「強くしたい」。94年の創部から6年、選手として、そして監督として先頭に立ってチームを引っ張ってきた。「選手の方が楽だ。指導者は大変だ」と、何度も彼女から聞いた。それだけに3冠達成の瞬間は、なんとも言えぬ喜びと感激で胸が締めつけられたことだろう。「身体中の力が抜けた」その時の涙は過去のいろいろなシーンが、脳裏を駆けめぐったはずだ。

今回のイズミの快挙はまさに「スピード出世」である。それだけに口に出せない努力と精進の賜物である。祝勝会でのセブンは心の底から勝利を祝福し合った。

「次のシーズンからは出来るだけ若手を起用したい。私は表面に出ないようにしたい」と言う林五卿。戦力の底上げに自信を確信したとともに、日本人のイズミへの布石でもある。3冠を契機に新しいイズミへの衣替えでもある。タイトルに酔うことなく、世界のスーパースターはまだ新生イズミとしての再スタートラインにつく。まずは実業団選手権でその第1歩を記す。

「生涯スポーツコンベンション2000」参加報告

新たな世紀を迎えようとしている中で、スポーツは健康の増進、体力の向上に資するのみならず生活に潤いを与え、家庭・地域の絆を深め、明るく豊かな生活を送る上でも極めて有効な役割を果たす事が期待されている。このような状況で、今日的急務である生涯スポーツ社会の実現に向けて、「生涯スポーツの新たな幕開け」を全体のテーマとして「生涯スポーツコンベンション2000」(文部省など主催)が、2月16、17日の両日に亘り横浜・みなとみらい地区にて開催され、全国のスポーツ関係者ら約1200人が参加した。

初日は全体会として(財)日本体育協会副会長・長沼健氏が今大会の基調講演をされ、サッカーを通じての欧州研修における貴重な体験談を挟みながら、欧州でのスポーツライフの考え方や所謂クラブ組織の充実振りについて語られました。とりわけ、スポーツ指導者に求められるものは、何のためにするのかの動機付け(モチベーション)を明確にさせた上で、集中力(コンセントレーション)を養い、そして最後はチームメイト同志の思いやりを大切にさせることであると説かれました。

引き続いて行われたシンポジウムでは、横浜国際競技場場長・西田善夫氏がコーディネーター役をされ、シンポジストには、町民挙げてのスポーツクラブに取り組む秋田県琴丘町教育委員会委員長・大山廣子氏、シンクロ競技オリンピックメダリストでIOC(国際オリンピック委員会)選手委員会委員・小谷実可子氏、支援企業の立場から(財)水野スポーツ振興会会長・水野正人氏が出席され、各々ご自身の経験からの生涯スポーツの新たな幕開けについて語り合いがされました。大山氏は、平成8年より総合型地域スポーツクラブモデル事業を実施し現在、全町民6700人が14のスポーツクラブに所属し伝統芸能の継承などの文化も併せ様々なスポーツ・文化活動に取り組んでいる様子を独特の秋田訛りを入れ情熱を込めて話をされました。小谷氏は、競技者(アスリート)としてオリンピックへの思いや7年前からシンクロを通じて子供達を楽しく指導している中から、仲間作り・励まし合う心等スポーツの持つ偉大な力を訴えられました。最後に水野氏は、企業人らしくマーケティング(市場調査から生産販売までの一貫した流れ)のマインドを生涯スポーツ育成の支援策として提言され、情熱と真心を持って生涯スポーツを支える様々な仕掛けを作る必要があると語られました。

翌日は、1. 総合型地域スポーツクラブにおける指導者の確保とその連携の在り方、2. 地域スポーツ・レクリエーション活動に果たす学校と地域の役割と連携の在り方、3. スポーツ活動における安全管理と事故への対応、4. 地域スポーツクラブの安定的・継続的運営方策について考える、5. スポーツのあるまちづくりを目指して、の5つの分科会に分かれ、各々のテーマを実践されている発表者からの活動内容報告を受け、参加者相互の交流を深めると共に意見交換を通して生涯スポーツの充実発展に向け、気持ちも新たに前進する事を確認しました。　(機関誌編集委員会委員・近久紀人)

がんばれ10万人会情報

「がんばれハンドボール10万人会」推進委員名簿

都道府県	委員氏名	加盟団体役職
【青　森】	田島　政義	副会長
【岩　手】	太田　利彦	副会長
【宮　城】	菅間　　進	副会長
【秋　田】	豊島　慶男	副会長
【山　形】	会田　恒雄	副会長
【福　島】	後藤　義信	理事長
【茨　城】	住尾　　勉	副会長
【栃　木】	高崎　　弘	副理事長
【群　馬】	小林　　進	副会長
【埼　玉】	遠藤　健次	副会長
【千　葉】	本間　誠章	副会長
【東　京】	滝口　三郎	副会長
【神奈川】	森川　利昭	副会長
【山　梨】	菊島　哲也	副会長
【長　野】	青木　　崇	副会長
【富　山】	徳前　啓人	副会長
【石　川】	寺垣　俊彦	副会長
【福　井】	村上　重治	副会長
【愛　知】	角　　紘昭	参与
【三　重】	鈴木　義男	副会長
【岐　阜】	斉藤　和義	常任理事
【京　都】	吉田　博二	副会長
【大　阪】	奥浜　　清	副会長
【兵　庫】	藤原　　豊	副会長
【奈　良】	高橋　俊二	副会長
【和歌山】	横山　和哉	副理事長
【島　根】	中西　　磊	
【岡　山】	後山富士水	副会長
【広　島】	東　　昌弘	副会長
【山　口】	青木　　操	副会長
【香　川】	松原　　忠	副会長
【徳　島】	長尾　輝夫	JHA評議員
【愛　媛】	河本　武夫	副会長
【高　知】	有光　正憲	副会長
【福　岡】	中西　敬一	副会長
【佐　賀】	甲斐　忠義	副会長
【長　崎】	石井　通義	副会長
【熊　本】	葦原　泰三	副理事長
【大　分】	疋田　　忠	副会長
【宮　崎】	堀之内真澄	副会長
【鹿児島】	蒲山　尚志	参与

がんばれ10万人会サポート会員

新会員の紹介

（平成12年4月5日現在）

【岩手県】谷川富男、佐藤睦朗
【宮城県】福島富造
【埼玉県】西山逸成
【東京都】鯛　美子
【神奈川県】佐分正典、斉藤達也
【富山県】徳前美智子、清水正人
【福井県】毛利真明
【三重県】田村金子
【岐阜県】桐山洋子、大橋広子、椿井明恵、土居亮子、小西清美、山岡恭司、岩島義則、森川俊章、高森　賢、橋本洋子、市原知明、安田祐樹、安田市子、伊藤憲一、河合晴雄、福田直行、菱田行男、田中則悟
【京都府】久保公雄、久保靖子
【大阪府】大森敏弘、山中登代、辻　巌、北岡大覚、津熊美智子、吉田卓記、吉崎純一、政尾真弓、脇田和男、遠藤義幸、中堂格次、渡辺利文、林　千恵、藤田洋之、大槻義昭、白鳥貴子、市来未央、上原　力、山中信人、井坂雅則
【奈良県】古川栄三郎
【鳥取県】石黒　豊
【広島県】山本光義
【山口県】明石直子
【徳島県】長尾輝夫
【福岡県】城島幸子
【大分県】末国正弘
【鹿児島県】上山崎　誠

平成11年度から
新会員登録制度
スタート！

がんばれ ハンドボール 10万人会



● HANDBALL FAMILY

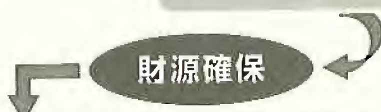
	年会費	主な特典
グランド会員	10.000円	日本協会機関誌（年11回） 日本協会主催大会無料パス 会員バッジ 日本協会認定グッズの割引
ファミリー会員	3.000円	日本協会主催大会無料 ペア券1枚 会員バッジ 日本協会認定グッズの割引

■登録増によるメリット

- メジャースポーツとして認知
- 登録金の増収



- スポンサーがつく
- 全員参加意識の高揚



各種事業への活用と充実

- ○小・中学校の普及
- ○ビーチ・マスターズ・車いすハンドの支援
- ○ミニハンドボール競技の導入
- ○ジュニア層の重点強化
- ○各大会の補助金アップ
- ○国際大会の招致
- ○一貫指導体制の確立

団結しよう！
ハンドボール・ファミリー

少子化の影響などにより登録人口の減少傾向が各スポーツ界の大きな悩みになっています。昨今の経済不況も深刻さを増すばかりです。

今こそハンドボール・ファミリーが団結する時です。皆さんが自分のチームを愛するように、日本ハンドボールを愛して下さい。登録人口が増え、財源が大きくなれば、小・中学校の普及はもとより、ビーチ・マスターズ・車椅子ハンドボールの支援、ミニハンドボールの普及、また強化の根幹となるジュニア層の重点強化、そして各大会の補助金アップや国際大会の招致などにつながります。

皆さん1人ひとりが主役です。選手、審判、役員、OB、OGなどに限らず新たなサポーターも募り、全員参加のもとでメジャー化を図り、ハンドボール文化を構築しましょう。

財団法人　日本ハンドボール協会

〒150-8050　東京都渋谷区神南1-1-1　岸記念体育館内
TEL.03-3481-2361　FAX.03-3481-2367
http://www.handball.or.jp/

グランド会員、ファミリー会員への入会方法

所定の申し込み用紙に必要事項をご記入の上、お申し込み下さい（郵送の場合は切手は必要ありません）。後日、日本ハンドボール協会から会員バッジなどをお送りします。年会費はご指定を受けた金融機関の口座から引き落としさせていただきます（ほとんどすべての金融機関でご利用できます）。

なお、申し込み用紙は、日本協会、各都道府県協会、または各全国連盟事務局にご請求下さい。

第2回全日本ビーチハンドボール選手権大会開催要項

1．主　催
（財）日本ハンドボール協会
2．後　援
本荘市　本荘市教育委員会　本荘市観光協会　㈱スポーツイベント　秋田放送テレビ　秋田テレビ　秋田朝日放送　秋田さきがけ新報社　さきがけスポーツ
3．主　管
（財）日本ハンドボール協会ビーチハンドボール運営委員会
秋田県ハンドボール協会
4．期　日
平成12年7月29日（土）30日（日）
（晴雨にかかわらず実施する）
5．日程及び会場
ルール研修並びに審判講習会：7月29日（土）　9時より
本荘マリーナ海水浴場
予選リーグ：7月29日（土）　13時より
本荘マリーナ海水浴場
決勝リーグ：7月30日（日）　10時より
本荘マリーナ海水浴場
5．競技種別
男子の部・女子の部
6．競技規則
平成12年度日本ハンドボール協会ビーチハンドボール競技規則による。
7．競技方法
予選リーグ・決勝リーグにて実施する。
8．参加資格
全国9ブロックより推薦されたチーム。および都道府県協会から推薦され、日本協会で承認したチームとする。選手の年齢は16歳以上のものとし、未成年者にあっては保護者の承諾を得たものとする。また平成12年度（財）スポーツ安全協会障害保険または任意の保険に加入していること。
9．参加人員
1チーム15名で、役員3名、選手12名とし、試合登録は役員3名、選手8名とする。
10．申し込み
別添え参加申込書により7月8日（土）まで、参加料を添えて申し込むこと。
申込先　〒150－8050 東京都渋谷区神南1－1－1
岸記念体育会館内　（財）日本ハンドボール協会
ビーチハンドボール運営委員会事務局　江成元伸宛
※郵送のみ受け付ける。
11．選考会
本選手権大会はWORLD GAMES 2001 AKITAに出場するビーチハンドボール日本ナショナル選手の選考会を兼ねて実施する。
12．宿泊料金
1人1泊2食 8,000円
13．参加料
1チーム 20,000円
14．表彰
1～3位まで賞状と盾を授与する。

タイクリップとカフスボタンのセットを販売

日本協会では、タイクリップとカフスボタンのセットを新たに製作いたしました。デザインは昨年度制定し、会員バッチにも使っておりますニューシンボルマークを使用しています。
色はゴールドで格調高く仕上がっています。
価格は一般価格が2,500円、会員価格が2,000円となっています。
会員の皆様にはぜひ1セットご購入下さるようお願い申し上げます。また、大会の景品にもお手ごろなグッズとなっていますので、ご利用いただければと考えております。
この機会を利用して、審判グッズ、その他、日本協会製作グッズも合わせてご利用下さい。
申し込み、お問い合わせは、日本協会事務局までお願い申し上げます。
日本協会事務局　☎03－3481－2361



協会だより

平成11年度第2回評議員会

［日　時］平成12年2月26日（土）
13：00～16：00
［場　所］南青山会館
［出席者］31名　委任状14名　執行部・中澤副会長、市原専務理事、常務理事8名、理事1名、参事1名、監事3名

議題1. 平成11年度2次補正について
平成11年度第2次補正予算（案）について、説明がなされた。
議題2－1. 平成12年度事業計画（案）および予算（案）について
各委員会から事業の基本方針および重点施策が示された。
意見交換の後、平成12年度の事業計画（案）が承認された。
平成12年度の予算（案）が審議された。
議題2－2. 平成12年度国内大会日程・主要会議日程について
平成12年度国内大会日程・主要会議日程が承認された。
議題3. がんばれハンドボール10万人会について
問題点を規程で改訂。がんばれ10万人という言葉が理解しづらいためサポート会員に改訂。入会についての問題点。年度会費、入会した日より1年間に変更。第3条会員期間の改訂。運営役員登録規程の改定についての承認依頼があった。以上承認された。

【報告事項】
1. 第9回男子・第7回女子アジア選手権大会兼シドニー五輪アジア予選結果
女子：朝鮮民主主義人民共和国の変化、ファンコーチの指導力で実績を評価。
男子：中国の4：2ディフェンスに対応できなかった。若手の成長でチーム力は向上。
男女：基礎体力の遅れ、個有技術の向上必要。スピードハンドボールへ。スタッフの経験不足。
韓国以外のアジアのレベルが向上した。現場は実績を上げたが、結果が出せなかった。
2. NTS（ナショナルトレーニングシステム）について
7月から9ブロックでの完全実施を目指す旨、提案があった。
次のように資料に沿って説明があった。
・NTS運営委員会の新設：委員長　蒲生、副委員長　東根とする。
・見つけ・育て・活かすことが大切である。この見つけは、選手発掘であり、ブロックに依頼する。

平成11年3月度常務理事会

［日　時］平成12年3月21日（月）
10：00～11：30
［場　所］駒沢大学
［出席者］市原専務理事、常務理事9名、理事1名、監事1名、事務局2名

1. 平成12年度日本協会基本方針・執行部組織について
基本方針について、長期・短期目標の提案があり、各常務理事の意見を持ちより4月常務理事会で協議することとなった。
執行部組織について、強化委員長の公務の関係での辞任を受け、後任に緒方氏を承認。
組織は現組織を承認。
事業本部、総務本部人事について検討され、4月常務理事会で結審することで承認。
2. 強化部体制について
平成12年度強化に関する委員会、部会の組織及び役員・委員、並びにナショナルチームスタッフ、及び委員会の今後の課題について提案どおり承認。ナショナルトレーニングシステム運営委員会組織について承認。
3. 事務局体制について
職務について、緒方参事が強化と日本リーグを担当する。日本リーグ部長の定年退職に伴い、新事務局員の採用を承認。
4. 社会人連盟発足について
実施に向けて、検討を依頼した。
5. 日本協会公式マークについて
日本協会公式マークについて、登録商標を取得することを承認。

【報告了承事項】
・サポート会員の募集推進状況について報告
・日本リーグ加盟チームの休・廃部について報告
・シドニーオリンピックアジア予選決算中間報告
・C級コーチ養成講習会を7月28日から8月2日まで開催
・マッチバイザー制度について、手順、ガイドブックについて送付し、4月1日より実施
・日本マスターズ大会について、ハンドボールの採用が見送りになったことを報告
・審判合同会議、並びにドイツ審判によるトップレフェリー講習会の開催報告
・世界選手権アジア予選日程について報告
・JOC球技系サポートプロジェクト海外調査報告
・JOCアスリート委員会などの報告

日本協会監事・竹野奉昭氏が'99ミズノスポーツメントール賞受賞



この制度は競技スポーツ、スポーツ医科学、生涯スポーツなどの各分野で活躍している優秀な指導者を顕彰する財団法人水野スポーツ振興会より毎年実施されている制度です。

日本ハンドボール協会推薦で監事の竹野奉昭氏が、選手、指導者時代を通してオリンピックに４回出場、強化の基礎づくりと今日では企業スポーツ振興の功績が認められて受賞、ハンドボール界では初めての受賞者となった。

2000年国際大会日程（予定）

【５月】
■５月予定　第１回アジアビーチハンドボール選手権大会兼第１回世界選手権大会（イラン）
【６月】
■６月27日～７月４日　第４回女子世界学生選手権(フランス)
【７月】
■７月25日～８月５日　第６回女子アジアジュニア選手権兼2001年世界選手権予選（バングラディッシュ・ダッカ）
【８月】
■８月10日～17日　2001年男子世界選手権東アジア地区予選
■８月10日～17日　第６回アジア女子選手権兼2001年世界選手権予選（中国・上海）
■８月25日　世界選手権アジア第３代表決定戦（レバノン）
■８月10日～17日　2001年男子世界選手権西アジア地区予選（ヨルダン）
■８月30日～９月10日　第７回アジア男子ジュニア選手権兼2001年世界選手権予選（イラン）
【９月】
■９月16日～10月１日　第27回シドニーオリンピック（オーストラリア・シドニー）
【11月】
■11月10日～30日　第３回アジアクラブ選手権（未定）

チームを探しています

私はスウェーデンのハンドボール選手で、今は国内２部リーグのＢｒｏｍａｎｉａ　ＡＩＫというチームでプレーをしています。今20才で身長は198cm、体重は99kg。右利きで主にポストプレイヤーを務めています。
私は日本でハンドボールと勉強を結びつけながらプレーできるようなクラブを探しています。４～５年のうちにはスウェーデンのエリートに入りたいと思っています。ご連絡をお待ちしています。Ｊｏｎａｓ　Ｂｅｒｇｍａｎ
ｉｍ６ｙ＠ｈｏｔｍａｉｌ．ｃｏｍ

HAND BALL CONTENTS MAY

柔らかな感触で、最適なバウンド!

new



PKCH3-AD DX
5,500円

新発売

new



PKCH2-AD DX
5,400円

new



PKCH1-ADJ
3,600円



手縫い・国際公認球





PKCH3-AD
4,600円



PKCH2-AD
4,500円



PKCH2-ADR
2,700円





PKCH3-ADR
2,800円

MIKASA®
明星ゴム工業株式会社

(財)日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』第四〇七号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成十二年四月二十六日印刷 平成十二年五月一日発行
東京都渋谷区神南一—一—一
電話 代表 三四八一—二三六一
振替 〇〇一二〇—七—一〇二九三
編集兼発行人 市原則之
価格は登録金に含む